

豊橋市制施行100周年記念

校区のあゆみ

# 玉川

豊橋校区史

3

*Tamagawa*









豊橋市制施行100周年記念

---

# 校区のあゆみ 玉川



玉川校区南部の神ヶ谷、森岡、東森岡地区



## 長楽のヒノキ

古来より「地蔵檜」と呼ばれ親しまれている。目通りの太さは5.5m。落雷により上部は枯れ、下部は空洞になっている。

昭和51年に市の天然記念物に指定された。とよはしの巨木・名木100選にも選ばれた。

源頼朝がこの檜の下に馬をつないだという伝説がある。

## 神田川

お茶屋橋付近から上流を見る。近年までたびたび氾濫し、改修が行われている。

6月にはここで源氏ボタルがたくさん見られる。





## ふるさと祭り

校区総代会が毎年主催する4つの事業の一つである。

18年度は豊橋市制100周年記念事業の一つとしてイベントが加わる。

## 校区体育祭

保育園児からお年寄りまで参加し、町別対抗で熱戦が繰り広げられる。

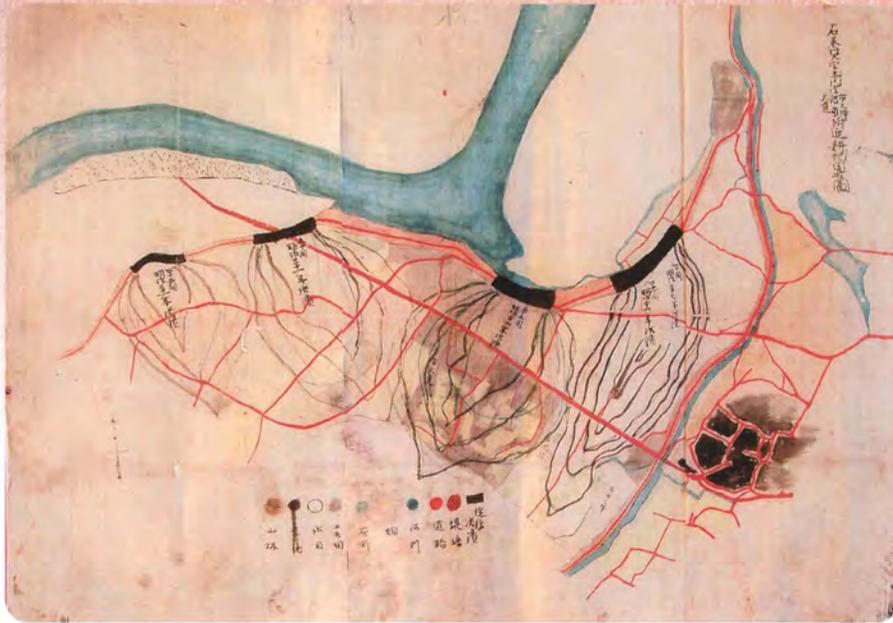


## 敬老会

社会のため、家族のために働いてきた人たちへの感謝の集い。

他町の人と会うのが1年ぶりという人も多い。





## 鐘が淵堤防決壊記録 (高木 定氏 蔵)

明治43年、水害多発のため県知事宛に耕地整理除外陳情書を提出した。その時の添付書類の一部。

## 筍食事会

神ヶ谷・森岡・東森岡三町の新しい行事。筍狩りと、筍御飯がふるまわれる。

子ども会・老人クラブを中心に多くの人が集まる。



## 高井太田神社 の子ども鬼

祈年祭の催物として奉納される。小学校5、6年生の子が赤と青の鬼をかぶる。

高井正八幡社、長楽正八幡社の祭礼にも鬼がでる。

# 発刊によせて



平成18年度  
豊橋市総代会長

西 義 雄

このたび、豊橋市制施行100周年を記念し、「豊橋校区史～校区のあゆみ」を発刊する運びとなりました。皆様のご協力により記念事業に素晴らしい彩りを添えることができましたことを、心よりうれしく思います。

この事業は、100年の節目を契機に地域の歴史や文化、自然などを改めて見つめ直し、将来の夢に思いを馳せていただくものであり、51校区すべてが足並みを揃え発刊できたことに、たいへん大きな意義を感じています。また、各校区におきましては、編集委員を中心に多くの地域住民の皆さんが資料の収集や原稿の執筆などに携わられたことと思います。こうした取組みを通し、地域の絆がさらに深まったものと考えています。

地域イベントの開催を含め「市民が主役」を合言葉に行政と協働で進めてきた100周年記念事業ですが、多くの地域住民の方々が様々な形で挙って参加できたことが何よりの成果であったと思います。今後におきましても、この100周年記念事業を一過性のものに終わらせるのではなく、次の100年に繋げていかなければならないと考えています。

最後に、本校区史の発刊にあたり、多大なご協力を頂いた多くの皆様に改めてお礼を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



平成18年度  
玉川校区総代会長

鎌 田 秋 吉

21世紀の初頭における記念すべき市制100周年事業の一つとして、「校区のあゆみ玉川」を発刊することになりました。これもひとえに編集委員や関係者をはじめとする、多くの皆様方のご協力の賜と深く感謝申し上げます。

玉川校区は豊橋市中心部より北東部に位置し、緑や川などの自然に恵まれた居住区であり、農業を中心として発展している地区です。「校区のあゆみ」では、昭和30年3月に石巻村が豊橋市に合併し、その後の土地区画整理に伴い新しい町の誕生、そして野原が住宅や工場となり、環境も大きく変化している様子が掲載されています。また、教育や文化では多くの伝統行事が引き継がれるとともに、新たな行事も数多く誕生し、活発に活動が行われている様子を知ることができます。

今回の取り組みでは、皆様方に校区の歴史や文化を知って頂くとともに、これからの未来においても“明るく健全な町づくり”を活動の一環として、より一層住み良い郷土にするために「校区のあゆみ」を役立てて頂ければ幸いです。

最後に、今後の皆様方のご活躍と校区の発展を心からお祈り申し上げ、発刊の挨拶いたします。

# 目次

# CONTENTS

## 第1章 自然と環境

- 1 校区の位置 ..... 7
  - (1) 位置・自然 ..... 7
  - (2) 地形・地質 ..... 7
- 2 気候のようす ..... 8
  - (1) 気候 ..... 8
  - (2) 風土 ..... 8

## 第2章 歴史と生活

- 1 歴史と生活 ..... 9
  - (1) 旧石器時代 ..... 9
  - (2) 縄文時代 ..... 9
  - (3) 弥生時代 ..... 11
  - (4) 古墳時代 ..... 13
  - (5) 飛鳥時代 ..... 15
  - (6) 奈良時代 ..... 15
  - (7) 平安時代 ..... 16
  - (8) 鎌倉時代 ..... 17
  - (9) 室町時代 ..... 19
  - (10) 戦国時代・安土桃山時代 ..... 20
  - (11) 江戸時代 ..... 21
  - (12) 明治時代 ..... 26
  - (13) 大正時代から昭和の初期 ..... 29
  - (14) 大きく変わった終戦後 ..... 31
  - (15) 戦後の耕地整理 ..... 33
  - (16) 新しい町 ..... 34
- 2 現在の玉川校区 ..... 35
  - (1) 玉川校区コミュニティ ..... 35
  - (2) 産業 ..... 36
  - (3) 文化・体育活動 ..... 37
  - (4) 校区内の公共施設 ..... 38
  - (5) その他 ..... 39

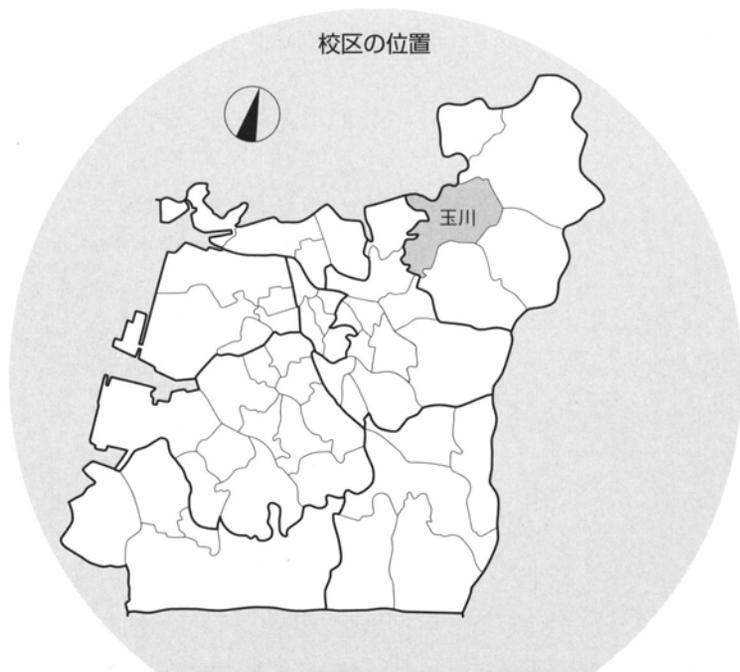
- (6) 玉川校区散策マップ ..... 40

## 第3章 教育と文化

- 1 学校教育 ..... 41
  - (1) 寺子屋や私塾 ..... 41
  - (2) 玉川保育園 ..... 41
  - (3) 豊橋市立玉川小学校 ..... 42
  - (4) 豊橋市立石巻中学校 ..... 44
  - (5) 旧石巻公民学校 ..... 45
  - (6) 旧愛知県立新城高等学校石巻分校 ..... 45
- 2 社寺の歴史 ..... 46
  - (1) 馬越地区の社寺 ..... 46
  - (2) 和田地区の社寺 ..... 47
  - (3) 長楽地区の社寺 ..... 48
  - (4) 高井地区の社寺 ..... 49
  - (5) 神ヶ谷・森岡・東森岡地区の社寺 ..... 50
- 3 文化財と人物など ..... 51
  - (1) 有形文化財・美術工芸品 ..... 51
  - (2) 無形民俗文化財 ..... 51
  - (3) 史跡 ..... 51
  - (4) 天然記念物 ..... 51
  - (5) とよはしの巨木・名木100選 ..... 51
  - (6) 功労者・受賞者 ..... 51

- 編集後記 ..... 52

表紙：馬越長火塚古墳  
(古墳時代の後期、東三河の首長級の古墳)



# 第1章 自然と環境

## 1 校区の位置

### (1) 位置・自然

私たちの校区は豊橋駅より北東5km程のところであり、馬越・和田・長楽・高井・神ヶ谷・森岡・東森岡の7地区で、北と東を弓張山系の山々で囲まれている。弓張山地は、遠く赤石岳を主峰とする南アルプス赤石山脈の南端にあたる。

一級河川の豊川と神田川が流れ、肥沃な土地であり、弥生時代から直播稲作が行われ、米がたくさん採れる裕福なところであった。

### (2) 地形・地質

校区の北部は、弓張山脈の末端の山々で囲まれており、南北に伸びる県境尾根を幹とし、そこから枝のように西へ伸びる2本の尾根がある。1本が馬越地区の北側の尾根で、隣接する西郷校区との境界になっている。もう1本は長楽地区の南側の尾根で神田川の左岸まで末端が伸びている。

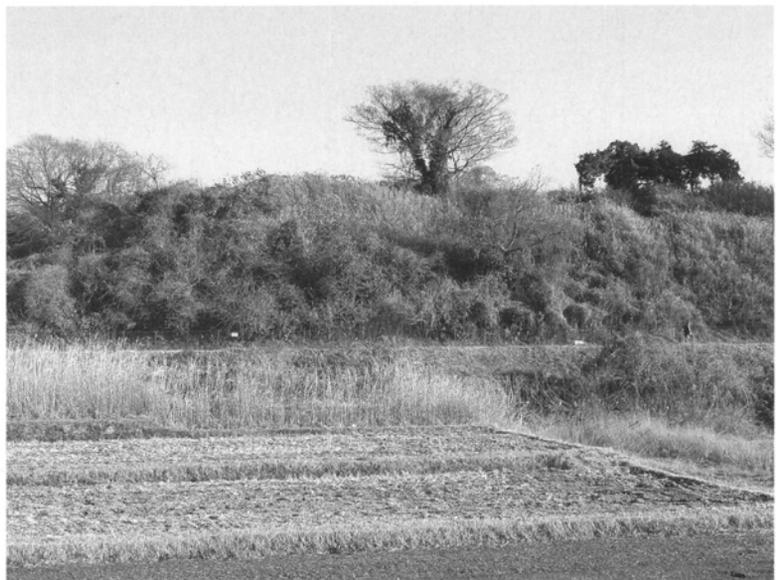
河川は豊川市との境界となる豊川をはじめ、馬越川・神田川・矢田川が流れている。馬越川は北東から南西へ流れて豊川と合流し、神田川は高井地区で矢田川と合流、下流の神ヶ谷地区の西で三輪川と合流して豊川へ流れ込んでいる。

この地域の地盤は、秩父累帯(古生代)の地層、三波川帯の

岩石、更新統及び完新統の地層から構成されている。秩父累帯の地層は、主にチャート、砂岩、頁岩、石灰岩及び緑色岩などから成っている。三波川帯の岩石は市の北部地域に限られている。更新統は市域の台地の大部分を占めて最も広く分布している。

川の両岸は低地となっており、今でも多雨による浸水がある。この低地を沖積平野といい、豊川に沿う低地に分布し、固結していない砂礫、砂、シルトなどから成っている。沖積平野ができたのは、完新統という地質時代と考えられている。

沖積平野より高い台地は、豊川の河岸段丘であり、砂礫、砂、シルトの層から成っている。この台地ができたのは、沖積平野ができた完新統より前の更新統という地質時代と考えられている。この台地を洪積台地と呼び、豊川の右岸や左岸に広く分布している。



河岸段丘を利用した高井城址

## 2 気候のようす

### (1) 気候

平成17年版豊橋市消防年報によると、年間の平均気温は17.2℃である。年間の最高気温は35.9℃、同最低気温は零下1.7℃である。年間の平均風速は3.4m/s、降雨日数は106日で年間降雨量は1,763.5mmとなっている。

この地域は、温暖な気候であるが、秋から冬にかけて西北西の冷たい季節風「三河のからっ風」が吹く。夏は、暑い南東の季節風に変わる。

旧石巻公民学校が昭和13年9月1日より気象観測を続けた記録の一部である。

午前10時の平均気温 (℃)

月年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年平均
昭和14	4.3	6.3	9.8	15.9	20.3	23.3	29.0	28.7	26.3	20.1	14.7	8.3	17.3
15	4.5	6.3	9.6	14.7	21.3	25.0	28.4	27.5	25.6	20.5	15.6	9.6	17.4
16	7.4	6.7	10.7	15.4	20.8	23.9	26.7	28.3	23.9	20.0	16.2	10.4	17.5
17	6.1	5.8	12.6	15.8	20.8	24.2	31.0	29.9	27.5	20.0	15.3	9.0	18.2
平均	5.6	6.28	10.7	15.5	20.8	24.1	28.8	28.6	25.8	20.2	15.5	9.3	17.4

平均最高気温 (℃)

月年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年平均
昭和14	7.8	4.4	13.3	18.0	22.6	26.1	30.6	30.8	27.8	22.2	17.0	11.4	19.3
15	7.9	8.0	13.1	17.9	23.4	27.3	29.7	29.1	27.4	22.7	17.8	12.3	19.7
16	10.6	10.3	14.1	18.6	23.3	25.7	28.9	29.9	25.7	22.3	19.1	13.3	20.1
17	8.4	9.5	16.5	19.2	23.5	26.4	33.1	32.5	29.3	22.9	15.6	12.0	20.7
平均	8.7	8.1	14.2	18.4	23.2	26.4	30.6	30.6	27.6	22.5	17.4	12.3	20.0

平均最低気温 (℃)

月年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年平均
昭和14	-2.8	-1.1	2.9	7.2	11.6	14.6	22.3	21.6	18.9	12.2	6.5	-1.0	9.4
15	-3.5	-2.8	1.4	4.9	10.7	13.9	22.5	20.9	18.1	12.0	6.5	-0.6	8.7
16	-0.6	-2.5	1.4	4.6	10.5	17.6	22.4	22.9	16.6	10.9	6.6	2.2	9.3
17	-3.3	1.0	4.6	4.4	10.2	15.9	23.1	25.0	20.5	13.2	5.3	4.0	10.3
平均	-2.6	1.4	2.6	5.3	10.8	15.5	22.6	22.6	18.5	12.1	6.2	1.2	9.7

気象の統計表

### (2) 風土

沖積平野の低地は、水田として利用し、主に稲作が行われている。高地の洪積台地は住居や畑として利用されている。畑では白菜・白ネギ等の野菜栽培や柿・桃・梨・ブドウ等の果樹栽培が行われている。特に果樹栽培では柿の栽培が盛んで、柿畑が多く見られる。

ビニールシートを資材として利用することが生産技術を向上し、そのために「生産量」が増えた。ビニールトンネルで栽培しているものは、プリンスメロンやスイカ等である。ハウスで栽培しているものは、イチゴやブドウ等である。トンネル栽培やハウス栽培をする農家も多く、近年、イチジクを露地やハウスで栽培する農家も増えてきた。



洪積台地の柿畑



イチゴのハウス栽培

## 第2章 歴史と生活

### 1 歴史と生活

#### (1) 旧石器時代

(約200万年前～約1万2000年前)

##### ①下条の田んぼやお茶屋橋付近は海だった

この時代の和田や高井、神ヶ谷、森岡の西の田んぼは遠浅の海であったと考えられている。

その海には石巻山の南側から三輪川、西側から矢田川、北側から神田川の水が注がれていた。この3つの川は大きな荒れた川であったと思われる。



お茶屋橋を渡って玉川方面に坂を登ってくると豊鉄バスの停留所に「坂上」という所がある。この坂を昔から「日南坂」(ぼとう坂)と呼んでいる。この、日南坂の下にある土地やお茶屋橋付近は、みんな海だったと思われる。

また、和田の春興院の北と権現山の間の田んぼも大きな池であった。馬越の方から流れる馬越川の水がこの池に注ぎ、今の湿地になっている荒地を通して海に注いでいたものと思われる。今でも馬越川の水が豊川の鐘が淵の東に流れている。

##### ②この地方に人間が住み始めた

日本列島に人間が住み始めたのは、今から1万年前だといわれている。



旧石器時代、縄文時代草創期の生活

この頃だといわれる遺跡がこの地方でも発見されている。それは、三ヶ日原人や牛川原人の遺跡である。

嵩山に蛇穴がある。その蛇穴に人間の住んだ跡がある。この遺跡は旧石器時代後期の遺跡だとも縄文時代の初めの遺跡だともいわれている。

#### (2) 縄文時代 (約1万2000年前～2300年前)

##### ①人間が土器を使うようになった

人間が住んでいる様子をはっきりしてくるのは縄文時代からである。この頃の人たちは、土を焼いて土器を作り、動物の肉などは火を通して食べるようになった。

この時代に使った土器には、縄の模様の入った物が多く使われていたということで、縄文時代といわれている。

また、人々が土器を作るようになり、本格的に農耕が行われるようになるまでを縄文時代ともいっている。

そして、土器の形の変化などから草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の6つの時期に分けられている。

## ②豊橋最古の縄文遺跡、嵩山蛇穴遺跡

昔の名残りをとどめている嵩山の姫街道を本坂峠に向けて歩を進め、坂道に入る手前の道を真っすぐに



嵩山蛇穴内部

嵩山蛇穴入口

行くと右手に池がある。さらに奥に進むと嵩山蛇穴遺跡が見えてくる。

これは、標高140mほどの山腹にある豊橋最古の洞窟遺跡である。

この遺跡では縄文土器や早期の石器、骨格器などの道具や獣骨、魚骨、貝殻などの食べかすも発見されている。

## ③洞窟や岩陰から竪穴住居へ

縄文時代の初めは嵩山の蛇穴遺跡のように洞窟や岩陰などに住んでいたが、早期以降になると竪穴住居に住むようになった。

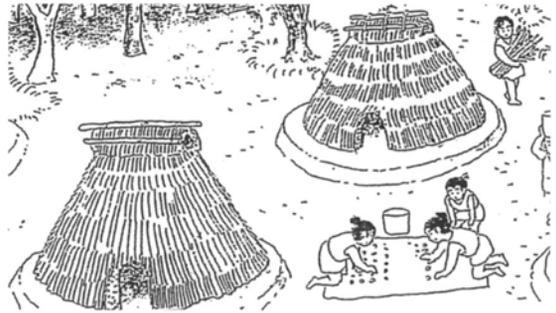
この竪穴住居は、地面に方形や円形の竪穴を掘り、その中に柱を建て、カヤなどで屋根を造ったもので、内部には炉が作られていた。

## ④くり、どんぐり、山菜が主食だった

人々は動物の骨や角で作った釣り針、槍、弓などでシカやイノシシ、魚などを捕って生活していた。

また、山で採れるクリやドングリの実、ワラビなどの山菜がこの頃の人々の主食であったようである。

大形の石で作った斧である石斧（せきふ）や土器などが発見されていることから、この時代の生活が良く分かる。



縄文時代の生活

昭和26年、玉川変電所遺跡を調査した時、多数の石斧、石鍬と甕棺5個が出土している。

死んだ人を葬る甕棺には縄文模様があったので、この地方にもこの頃、人が住んでいたものと思われる。

## ⑤自然堤防の上に住み、貝や魚を捕って生活するようになった

縄文時代の晩期あたりから水も引き、洪水などで土砂が流れてきて、今まで水に浸かっていた所が池や沼になった。そして、何本もの川筋になり渥美湾（三河湾）に流れていった。その川筋に流れてきた土砂がたまって洲や自然堤防ができ、土地の高い所や島ができてきたのである。

今の前芝は大昔、前島とっていた。横須賀町は横洲、瓜郷町は栗洲、下地は下川洲、大村町は大島といわれていた。

波の上、高洲、宮下、長楽の小深田などのように土地の名前や字名を見ると、その土地の歴史が分かる。

こうしてできた高い所に人たちが住むようになり、貝や魚を捕って生活するようになった。その遺跡が各所にある。今の太田にある大蚊里貝塚や五貫森貝塚などがそうである。この遺跡は縄文時代晩期から弥生時代初期の遺跡だといわれている。

貝塚には「地床炉」と呼ばれる火を焚いたあとがいくつも見つかっている。採ってきたハマグリを土器に入れて火にかけ、開いた貝の身を取り出して日に干し、保存食を作っていたものと思われる。

豊川の河口付近では狩猟の道具、魚具や魚の骨、住居跡が発見されていないので、これらの貝塚の一部は干し貝をつくる小さな工場のようなものではなかったかと考えられる。

そして、一本の丸太を火で焦がしながら石斧でくり抜いて丸木舟を作り、川や海を歩き来して交易品として他の地域に運ばれた可能性もある。

なお、干し貝以外にも海水を土器で煮詰めて塩も作っていたようである。

### (3) 弥生時代

(約2300年前～約1700年前)

明治17年、東京の文京区弥生町で縄文時代と違った特徴の土器が発見され、発見された弥生町の名前をとって弥生式土器、作られた時代を弥生時代と呼ぶようになった。

#### ① 気候が寒冷で海面が下がっていた

縄文時代晩期から弥生時代前期にかけて気候が寒冷になり、海面が低下し、以前よりも3m近く低くなったといわれている。

この頃、この地域は遠浅の海から次第に葦などがいっぱい茂った池や湿地に変わり、三輪川や矢田川、神田川の川筋がはっきり見えるようになってきた。

そして、現在、川筋に沿って田んぼや畑になっている所はみんなその湿地であったと考えられる。



三輪川、矢田川、神田川の想像図

#### ② 米作りが始まった

人々はこうした湿地を掘り起こして稲を植え、米を作って生活するようになった。

米作りは、ちょうど、この頃、中国から伝わって来た。初めは川や池の水辺に稲を植えて米を作ったが、だんだん湿地を掘り起こして稲を植えるようになったと考えられる。

#### ③ 新しい弥生文化をもたらした白石遺跡の人々

白石遺跡では弥生時代前期の「遠賀川式土器」がまとまって発見された。「遠賀川式土器」というのは、北九州から伊勢湾地域に広がる



弥生時代最初の土器で、作り方や形のちがった甕、壺、鉢である。



この土器を使った人々は、初めて水田で稲作を行い、木製農機具や石包丁と呼ばれる新しい道具を使っていたと思われる。

(上) 白石遺跡の現況 (下) 白石遺跡

白石遺跡を残した当時の人々は、水が引いて湿地となった今の牟呂用水近くに稲を植えて米作りをしていたと考えられる。

④龍が描かれた糸を紡ぐ紡錘車が出土した高井遺跡



高井遺跡



龍が描かれた紡錘車

白石遺跡の近くの高台にある高井遺跡では、弥生時代後期を中心として当時の人々が使用していた壺、甕などの土器が重なり合うようにたくさん出土している。

これ以外に龍の絵が描かれた糸を紡ぐ道具の一部である紡錘車（ぼうすいしゃ）など特殊な土製品も見つかっている。

こうした出土品は白石遺跡、高井遺跡とも

に幅の広い堀の中から発見されている。

高井遺跡の堀は幅約1.5m、長さ30m以上の規模であり、断面の形がV字状の堀になっている。

このような堀を環濠（かngo）と呼んでいる。そして、環濠を巡らせた集落を環濠集落という。

この2つの遺跡はかなり大きな環濠集落であったと考えられ、この時代に大規模な争いがあったと思われる。

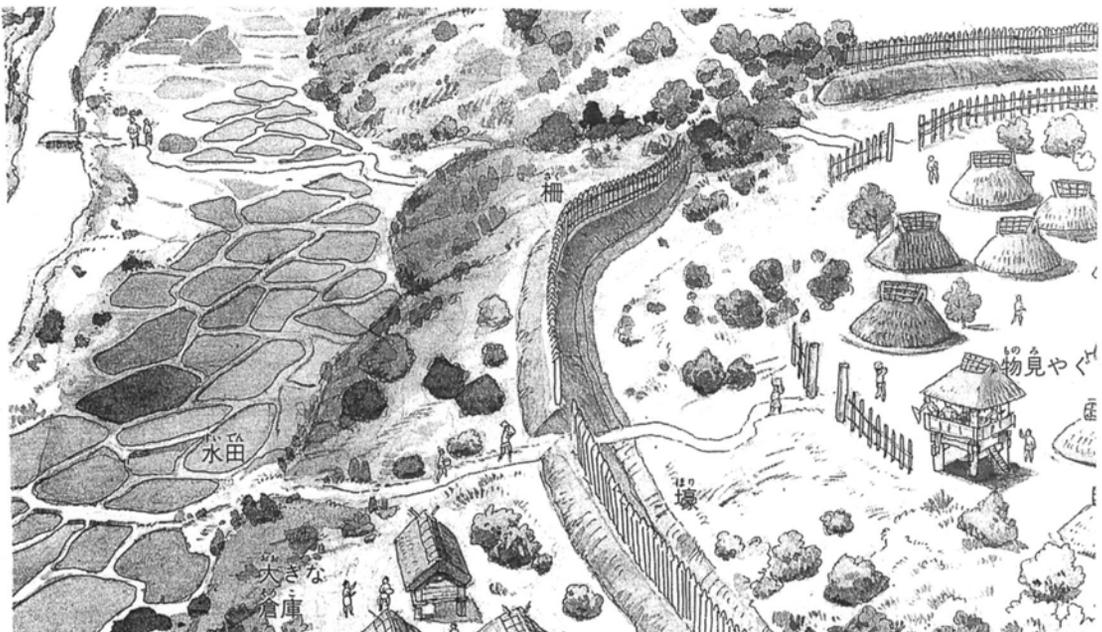
⑤これらの遺跡を残した人々の生活

この高台に住んでいた人たちも、高台の西の牟呂用水沿いの湿地を利用して米作りを始めた。

今の牟呂用水沿いの田んぼは、ほとんど、高井や和田などの先祖が拓いた土地であろう。今でも和田や高井の人たちが所有して米作りをしている。

また、馬越、長楽、神ヶ谷でも豊川や三輪川、神田川に注ぐ小さな川辺から米作りが始まったと思われる。

こうして、食糧を採集する生活から食糧を作る農業の暮らしにと大きく変わった。

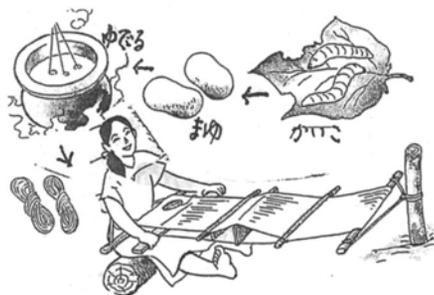


環濠集落

そして、麦や大豆、えんどう、あわ、きびなども作ることを覚えた。

また、道具も石斧から鉄製や青銅器製の道具に変わってきた。

弥生時代後期には、蚕（かいこ）を飼って絹糸や絹織物を作るまでになっていた。



#### ⑥村や小さな国ができ、争いが多くなった

農業を覚えたこの頃の人々は同じ所に住むようになり、人数も多くなって集落や小さな国ができてきた。

人数が多くなると食糧もたくさんいる。洪水や旱魃（かんばつ）が続いて食糧が不作になる時に備えて、穀物を大きな甕（かめ）に乾燥させて蓄えた。特に、米は稲穂だけ切り取って保存し、必要なだけ取り出して、臼（うす）に入れて木の棒ですり合わせて、もみがらを取って食べていた。

しかし、洪水や日照りが続いて米などが採れなくなると、よその集落から食糧を奪いにやって来る。村の人たちは木で柵を造ったり、濠を掘って村に入れないようにして食糧を守らなければならなかった。

#### ⑦作物に恵まれ、豊かな地域だった

この頃の私たちの祖先は、文字もなくて、暦ももっていなかったが、花や葉の色の変化、虫や鳥のようすから季節を知り、種まきや田植えの季節を知っていた。それが少しでもずれると、発芽や成長、開花に影響し、収穫が減るということも体で覚えていた。

特に、玉川地区は環濠集落の長老に恵まれた地域ではなかったかと思われる。季節には十分注意し、1年の計画をたてて集落のみんなと協力して農作業にあたった。

田植えの時は男も女、子どもも総出で田植えをした。この光景は戦前まで見られた。

#### (4) 古墳時代

(約1700年前～約1300年前)

縄文時代には生まれた子どもの半分以上は病気などで亡くなり、平均寿命は20才ぐらいだったと考えられている。そのため靈魂が迷って出ないように手足を縛って土の中に埋葬された。

弥生時代後半になると村の堀の外に共同墓地を造り、甕の棺に入れて葬った。石巻中学の北にある共同墓地は、この時代からあったと考えられる。

こうした共同墓地は別名「さんまい所」といわれて各集落に一つはあり、昭和の中頃まで使用されていた。

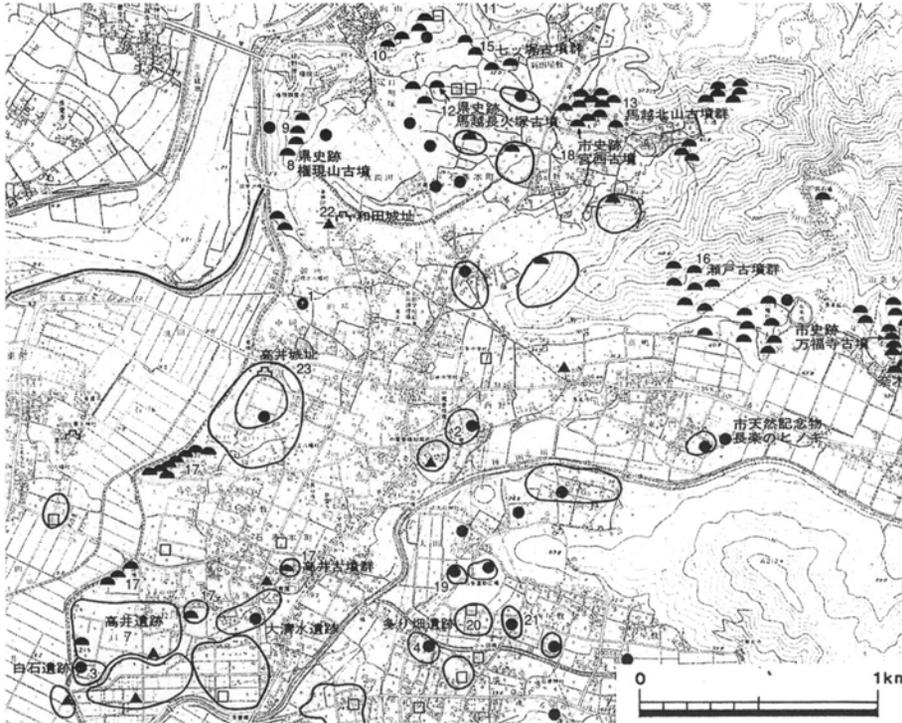
この頃までの埋葬方法は、穴を掘って遺体を甕棺に入れて葬っていたが、有力者の墓だけは土を高く盛って造られた。こうした有力者の墓を古墳と呼んでいる。

この古墳からは当時の社会のいろいろな制度や秩序がわかる。

#### ①玉川校区には多くの古墳が残されている

この時代は古墳時代とも呼んでいるが、一般的には大和時代といわれている。私たちの祖先は大和朝廷に属して生活していたものと考えられる。

豊川流域には300基ほどの古墳が発見されているが、玉川校区でもたくさん古墳が発見されている。北岸台地にある高井古墳には24基、その南岸には森岡古墳12基、その南方の神ヶ谷には中野古墳などがあつた。



玉川校区の古墳群



神ヶ谷古墳群

校区の北には馬越古墳群があり、馬越川流域には和山の北にある権現山古墳2基、権現山の麓の勝山地区にある勝山古墳、馬越の北山古墳など6基の古墳があった。

そして、長楽、高井、神ヶ谷など校区内のいたる所で当時の物と思われる出土品が出てきており、この地方にはかなり多くの村や集落があったと考えられる。

今は、亡くなった人が大事にしていた物を棺に入れて焼却し、残った遺骨を墓に収める

が、昔は土葬なので当人が大事にしていた物が残っている。

馬越の長火塚古墳では、銀製の勾玉、琥珀製のなつめ玉、金環や銀環、ガラス玉、小刀、大刀、鉄製の矢じりや鎌などが出土した。

この古墳は馬越地区の西端にあり、東、西、北を山に囲まれた小盆地で、平地に築かれていた。

また、西向きの前方後円墳で後円部、

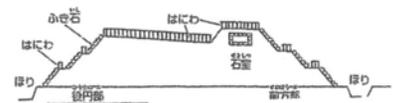
前部が細くて、あたかも古い手鏡のような形をしている。後円部の直径は32m、高さは5.5mもある。

遺骸を安置する石室は南向きで、完全に残されている。石室の構造は前後2つの石室に通路があり、全長17m、高さは3mもあって、愛知県古墳の中で一番大きな石室である。

石室の構造や副葬品などから6世紀後半に造られたものと判断され、この地方有数の豪族、国造級の墓と考えられている。

その他、豊川にかかる三上橋前方にある権現山山頂の1号古墳も長さ38mの前方後円墳である。

こうした古墳からいろいろな副葬品が出土したが、その中に金環、銀環や鉄製の矢じり、刀、鎌などが出てきている。



古墳の構造



石室

この頃、大和地方では朝鮮半島から渡来人がやって来て、いろいろな技術を伝えたといわれている。

こうした技術は地方にも長い時間をかけて伝わって来たのであるが、貴重な技術を持って地方に派遣されて来た国造が、馬越遺跡の豪族ではないかと考えられる。

### (5) 飛鳥時代 (西暦400年～700年頃)

天皇を中心とする政府が作られ、公地公民制、班田収授、租庸調という税を取り立てる制度を作り、地方に国司、郡司を置いて治めさせた。

国司の下に郡司があり、郡司の下に里長があり、税金の取り立て、神社や戸籍の管理、開墾など農業の奨励、土木事業の労役や兵役などを担当した。

また、世界最古の木造建築といわれる法隆寺が建てられたのも、この時代である。

#### ①人々の生活は大変だった

三河の国は宝飯、八名、渥美など八郡が入っており、郡の下には村や里(郷)があり、和田郷は嵩山村、玉川村、下条村などが入った豊川東辺一帯で、和田村を中心とした集落であった。



租税を運ぶ人々

この時代の生活は大変だった。農作業の合間に道造りや兵役に駆り出され、租庸調の税金を中心に様々な負担を担っていた。

人々から集めた租の一部と庸調は都に運ばれ、三河からは絹織物、塩、窯製品が京に送られたが、集落の代表たちが往復17日もかけて納めていた。

特に、この地方の絹織物は品質が良く、天皇の衣装に使われていたので、馬越を中心に神ヶ谷、高井、和田、長楽でも、絹糸を出す蚕を飼うのに必要な桑の木の栽培が盛んだったと考えられる。

### (6) 奈良時代 (710年～794年頃)

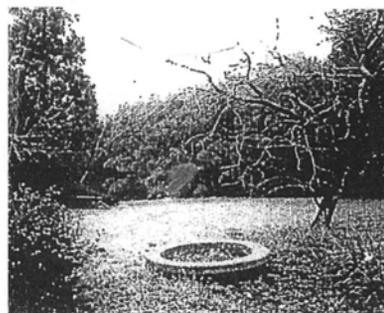
天皇の力が全国に及ぶようになると奈良に都を移したが、この頃の人々は貧しく、苦しい生活に耐えられなくなり、土地を捨てて流浪人となり野盗や山賊となった人が多く、田畑は荒れ放題となった。

また、各地で天然痘がはやり、飢えと病気で亡くなる人も多く、朝廷に反乱を起こす者も出てきたので、国の乱れを仏教の力にすがって治めようと、大仏殿や各地に国分寺や国分尼寺が建てられた。

そして、国分寺は地方の寺院や僧侶を監督し、国分尼寺では妙法蓮華経が読経され、民に代わって減罪を祈願した。

#### ①この地方唯一の尼寺、竜泉寺

国府近くに、国分寺、国分尼寺ができたことで、この地方でも寺院が建てられるようになったのではないかとと思われるが、奈良時代に建てられたという資料のあるお寺はない。



竜泉寺跡

校区には和田の春興院、廃寺となった尼寺の竜泉寺、高井には慈雲寺、長谷寺、神ヶ谷

の廣福寺、馬越の宝蓮寺、長楽の長楽寺などがある。

なお、竜泉寺はこの地方唯一の尼寺で、春興院とともに、かなり古くから中央との関りがあったと考えられる。

そして、この寺を利用して村の寄合いをするなど集落の交流の場でもあったが、戦後廃寺となった。その跡が杉浦登丸さんの家の南に残されている。

## ②農村の生活

この頃、この地方でも天然痘がはやり、日照りや洪水、地震などがあり、生き地獄のようだった。

当時の農民の生活はごく粗末で、竪穴の草ぶきの家に住み、蒸した玄米や獣、魚、木の实、海藻などを食べていたようだ。衣服は麻で織ったごく簡単なものであった。



生き地獄のようだった

## (7) 平安時代 (794年～1192年頃)

藤原氏が政治の実権を握り、豪族から寄進された広大な荘園を手に入れて栄えた時代である。

新しく切り開いた土地の私有が認められ、貴族や社寺、地方の豪族、名主など、競って私有地を広げ始めた。

こうして開墾された土地（荘園）を守るために武士集団ができた時代でもある。

## ①石巻地方の豪族は八名氏ではないか

当時、皇位継承などに手をかした源氏は二派に分かれて戦うが、保元物語には三河から大勢、源義朝方に加わった記録がある。

石巻地方の豪族は、かなり前から三河に関係のあった大友一族で、一大豪族の八名氏となり、この八名氏から設楽、八名、宇利に分家したと考えられる。

大友一族は奈良時代末期に実在した大友家の末裔ではないかと考えられ、東三河一帯の国司として派遣されて来たものと思われる。

そして、財力を蓄え、設楽、中条、八名、宇利などの郡司や有力者を抱きこんで広大な荘園を作ったものと考えられる。

これは平安中期から平安後期にかけてのことである。

## ②小野田の荘園と安達盛長、和田の和田義盛

こうした広大な荘園を守るためには武力が必要であった。荘園の持主自ら武力を蓄え、配下の指導もしていたと考えられる。また、中央から派遣された武士によって守る場合もあった。

前者が鎌倉時代初期に鎌倉幕府の立役者である安達盛長である。

安達盛長は当時、小野田氏を名乗っていたので小野田の荘の出身ではないかと思われる。これについての確証のある資料はない。

後者については、三浦郡から和田に来た和田義盛である。

## ③神ヶ谷の神宮御厨も荘園と同じ私領であった

この地方では宇利の荘が知られている。その他、荘園に近い地区がいくつもあったと考えられる。

神ヶ谷に神宮の御厨という所があった。これは神宮の領地で、荘園と変わらぬ私領であったと思われる。

## ④土間に「むしろ」を敷いて寝ていた人々

平安中期から、中央の貴族の間では、たたみに座る習慣が始まり、日本人の衣食住の生活の基礎ができてきた。

しかし、農民たちは、相変わらず草葺きの小さな家に住み、土間や床にむしろを敷いてそのまま寝ており、蚊やハエと同居していた。

## (8) 鎌倉時代 (1192年～1333年)

平安時代末期、武士集団で頭角を表したのが源氏と平家である。ともに京の警護に当たっていたが、平家が勢力を強め、政治に介入するようになった。

後白河法皇の命を受けて源頼朝が挙兵し、弟義経を遣わして平家を壇ノ浦で滅ぼして鎌倉で幕府を開いた。

そして、国ごとに警備の役割を持つ守護と、年貢などを取りたてる地頭を置き、直属の武士を全国に配置して実権をにぎった。

源氏3代で北条氏に引き継がれるが、二度にわたる蒙古の来襲で力が衰え、足利尊氏らに滅ぼされて、鎌倉時代は終わった。

## ①三河の初代守護になった安達盛長

東三河は以前から源氏と関わりが深く、特に、安達盛長は後三年の役や保元の乱など源氏に関わる戦いに参戦して数々の功をたて、頼朝の信頼が厚かった。

鎌倉幕府の記録書「吾妻鏡」によると治承4年(1180)6月、頼朝は相模の源氏累代の家人に参戦を促す書を送っているが、その使者こそ安達盛長であった。彼は、建久5年(1194)から5年間守護を務めたが、守護代を置いて、鎌倉で活躍するのである。

鎌倉幕府が北条氏に変わってからも盛長の子孫が娘を北条家に嫁がせ権勢を欲しいままにし、北条独裁への道を開いた。

普門寺、赤岩寺などの御堂の造営や東観音

寺に懸仏を寄進していることから、盛長が初代守護になってからは豊橋東部あたりに居を構えたと考えられる。

## ②この地方に関係の深い和田義盛

和田義盛は、桓武平氏の流れをくむ三浦一族で、梶本義宗—義盛(和田左衛門尉)—常盛弟義秀と「尊卑分脈」という本に記載されている。

和田義盛も源頼朝の重臣であり侍所の別当の一人になった人である。この人の祖先は保元の乱で源義朝方について功をたて、源氏とは深い関係があった。

和田義盛はこの頃和田城にいて、この地方の人々にいろいろな面で貢献し、城内の整備や神社等の改築に力を注いだ。

加藤泰之さんや鈴木登さんの西に、和田池に通じる堀がある。これは当時作られた内堀ではないかと思われる。



特に、治水や開墾、灌漑事業には熱心で、今の鐘が淵の南の田んぼなどもこの頃開墾された土地であると考えられる。

その土地の一部に「スギモト」という

土地がある。これは、義盛の先祖の梶本姓をつけたものと思われる。

和田八幡社の棟札には、文明3年(1471)牧野駿河守が、梶本から藤社大明神へ合祀とある。

この駿河守は和田氏一族、和田民部の子である和田左衛門尉成清と思われ、後に牧野

(豊川市)に移り住み、牧野と名乗り、今川氏に属した。その子孫の牧野古白は今橋城(吉田城)を築いている。

### ③この地方の鎌倉街道

古代の交通で困ったのは、橋のない川である。舟で渡るしかなかった。

豊川の下流に「志香州賀の渡し」があったが、難所で雨や風のために何日も待たされることが多かった。

しかし、この時代になると、東国の政治や軍事と経済的發展があり、人々の往来が激しくなった。特に、大勢の兵士や馬の移動には、川の浅い所を選んで瀬渡りするしかなかった。

そのため、志香州賀の渡しを避けて移動しようとしたようだ。

当時の人々が利用した道路(間道)はいくつかあった。その一つが、玉川の和田から当古へ出て、豊川の瀬渡りをして本野ヶ原、古宿(豊川市)へ行くルートである。



志香州賀の渡し

豊川の川筋は古代は何本もあったが、奈良時代前後に大きな流れとなって豊川市の三明寺あたりを流れていたと考えられている。

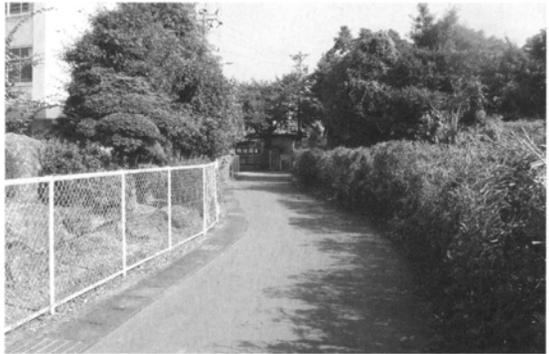
その後、だんだん東に移動し、今は当古の東を流れているが、当時は西を流れていたようである。

このように豊川の流れが変わるので、そのつど瀬渡りのできる場所を選んで渡ったため、和田から古宿へ行くコースがいくつもあった。

### ④源頼朝と鎌倉街道

全国を平定した源頼朝は上洛した。その時、雲谷の普門寺に立ち寄り、山を越えて岩崎で馬を留めて休息し、朝倉川を渡り、乗小路峠を越えて和田に出たと考えられている。

おそらく、乗小路から神ヶ谷の佐野さんの近くを通って日南坂を登り、左に折れて校区市民館の前を通過して今の姫街道に出て、当古から瀬渡りして本野ヶ原に行ったものと思われる。



旧鎌倉街道

#### 玄場とくら淵

長楽鉱山入り口と書いてある看板のある十字路を南に200m入った所に檜地藏があります。

この檜地藏の前の小道は、鎌倉街道の一部と言われています。

昔は、このすぐ側を神田川が流れていました。今でもそこを、玄場(げんば)と呼んでいます。

昔、源頼朝が、この地に来た時、ここで馬を下り、休んだと言われています。馬を下りる事を「下馬」と言いますが、この下馬が玄場になまって伝えられてきたのです。

そして、家来も馬も神田川の岸辺でやすんでいた時、ある馬が何かの音に驚き、暴れて鞍が川に落ちてしまいました。流れ着いたのは、すごく深い淵でした。

それから、この深い淵を「くら淵」と呼ぶようになりました。



しかし、長楽には数多くの頼朝伝説があるので、弓張山系の山ぞいを通して長楽に出て、勝山から豊川を渡った可能性もある。

### (9) 室町時代 (1333年～1573年)

鎌倉幕府が滅び、南朝と北朝の2つが争い、室町幕府が安定期を迎えるまでの60年間を南北朝時代と呼んでいる。

南朝の後醍醐天皇と北朝の光厳天皇、光明天皇の間で天皇の地位をめぐる争いが起こり、同時に武士の間にも政治の主導権をめぐる衝突が起こり、対立、抗争は全国に広がっていった時代である。

#### ①長慶天皇が玉川御所におられた



御所の想像画

長慶天皇は後醍醐天皇、後村上天皇に次ぐ南朝3代目の天皇である。

長慶天皇が三河玉川御所におられたという記述が歴史書にある。

南朝方の総大将の子息が三州八名郡玉川村和田に逃れて、和田尉盛勝と名乗ったとある。

この盛勝は和田義盛一族と姻戚関係があり、和田に逃れて来て、和田姓を名乗り、和田家を継いだものと考えられる。

この頃、長慶天皇は北朝方の軍勢に攻められ各地を転々と移動し、和田盛勝のいる和田の玉川御所に落ち着かれたのではないと思われる。

和田地内には御所、嵯峨、枇杷、広福、出口などの地名が残っている。当時はこのあたり一帯を御所と呼んでいたようである。御所の門のあった所が出口という地名になったと思われる。

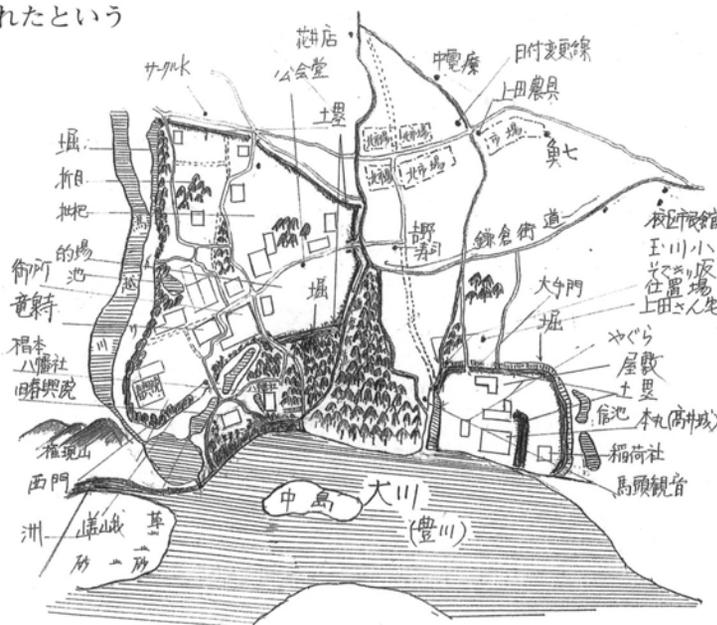
その奥の嵯峨地内には嵯峨城があり、嵯峨大覚寺殿の皇子が居られた春興殿があった。

後に、そこに建てたお寺を春興院といい、現在の春興院となっている。

#### ②和田城と高井城

この時代の城は砦で、賊の侵入を防ぐためのものであった。しかし、それ以前は、集落を取り仕切る豪族や里長の住む館のある場所だった。その後、食糧などを略奪されないように集落の周りに環濠を掘り、柵を巡らせたのがはじまりである。

夏目幸一さん宅の北に堀が残されている。その傍を馬越川が流れ、西は今の牟呂用水沿いと小倉橋から吉野寿司あたりまで崖の崖であった。しかも、サークルKの南から給食センターの東を通して林さん宅を大きくカーブして姫街道に流れる川があったと考えられる。



和田城と高井城の想像図

これは天然の要害であった。だから、土塁や柵はあまり必要がなかったと思われる。

そして、神社や寺院が建てられ、しかも竜泉寺という尼寺まで建てられていたのは、かなり古くから中央との関わりがあったと思われる。

麦わらやカヤで造った屋根の家から、檜の皮を使った屋根の家が、わずかであるが建つようになり、武士の戦闘訓練の流鏑馬（やぶさめ）広場も設けられていたようだ。

しかし、長慶天皇一行は立派な御所ではなく、質素な仮住まいであったのではないかとと思われる。

高井城は、姫街道に沿って小倉橋に出る所にある大塚モータースの南側の崖の上にあったが、今は柿畑になっている。戦前はいろいろな遺跡遺構が見つかった。

当時はこの城の下を豊川の本流が流れ、南には2つの池があった。そして、南と東側に高い土塁を築き、櫓、本丸と屋敷、それに城の守り神である稲荷社があった。

この城を築いたのは、後醍醐天皇の建武の中興に参画して功をたて、三輪の庄の庄司となり、高井、和田、長楽、神ヶ谷、嵩山、神郷、金田、多米、下条、三上にわたる広大な地域を支配していた高井主膳正といわれている。

難攻不落のこの地に城を築き、和田城にいる長慶天皇を守りながら南朝復興の拠点にしたものと考えられる。

### ③高井城の戦い

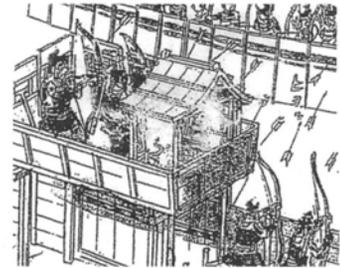
後醍醐天皇の皇子、宗良親王は静岡県の井伊谷に留まり、東国の勢力を蓄えて南朝の再興をはかる。

これを知った足利尊氏は高野師泰、師兼の大軍で、南朝の拠点の一つである高井城を攻めた。

高井城は西には大川があり攻めにくいと知った師泰、師兼の大軍は三ヶ日方面から攻めて来た。

高井主膳正は、かねてから覚悟して兵を要所に置いたが、延元4年（1339）12月8日の明け方、城を包囲した大軍を前に、次々と討ち死にした。

特に大手門の戦いは熾烈を極め、敵味方入り乱れて奮戦し、敵の波状攻撃に会い、ついに城は落ちてしまった。



大手門の戦い

高井主膳正は数人の部下を連れて石巻山に逃れるが、山中で自刃した。

この地の人々は遺骸を、敵、味方を問わず葬り、墓のかわりに松を植えた。

## （10）戦国時代、安土桃山時代

（1467年～1603年）

紀伊の守護、大内義弘の働きかけで、60年ぶりに南朝と北朝が一つになる。

しかし、次の将軍をめぐる幕府は分裂し、応仁の乱が起こり、武士が土地を奪って、武力で侵略するようになった。

こうして、大きな権力を手に入れたのが、戦国大名織田信長である。天下統一を目指して室町幕府を滅亡させた後、本能寺で殺された。その後天下を取ったのが豊臣秀吉である。

秀吉の死後は、関が原の戦いに勝った徳川家康が天下統一を果たした。

### ①この地方でも農業技術が高まり自治組織ができていた

この地方でも、農業は田に水を入れるのに水車などを使ったり、肥料を施すようになった。また、自治組織を作り、村で「寄り合い」

という集会を開き、長を選出して、祭の準備や道路の整備など様々な問題を解決し、村の掟（おきて）を決めて、村の団結を図るようになった。



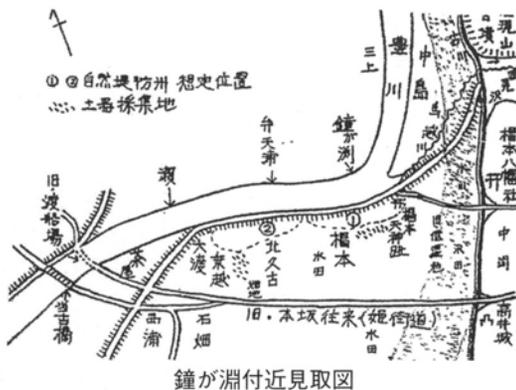
寄り合い

また、近隣の村とは田んぼの用水や山の利用について交渉したりした。

## ② 梶本八幡社の移転改築と牧野氏

牧野氏は、鎌倉時代から校区の和田に関係のある和田氏の末裔が、後に今の豊川市の牧野町に移り住んで名乗ったといわれている。

和田の梶本八幡社の棟札に、文明3年(1471)、大檀那牧野駿河守とある。牧野氏は今の牧野町から豊川を越して和田の神社の造営をしている。



鐘が淵付近見取図

文明3年以前の梶本八幡社は、鐘が淵の堤防の南側にあつて、東西92間、南北58間の境内があり、その森林の中にあつたといわれている。

大川（豊川）の本流が南北朝時代に勝山城や高井城のすぐ下を流れて、下条の大江川から渥美湾に流れていた。土砂の堆積などで流れが上の地図（点線の所）のように西に向きを変え、梶本社のすぐそばを流れ、ちょっと

した増水でも社が水に浸かるようになったと考えられる。

これを知った牧野駿河守は移転を考え、造営したものと考えられる。もともと、この地は牧野氏の祖先である和田氏の開いた土地であり、社も先祖にゆかりがあつたから造営したものと思われる。

そして、御所にある藤社天神に合祀し、社殿を立派に大きくした。そのため本殿を2つ作り、右を藤社、左を梶本八幡社とした。

### 梶本八幡社と徳川家康

当時、八幡社は戦いの守り神でした。家康は長篠の戦いで武田軍と戦うため、この杉ノ本までやって来ました。

そして、八幡社へ立ち寄り、戦勝を祈願し、出立する時見えたのが、前方の3つに重なる小山（権現山）でした。

「あれは何と言う山か」と神主にたずねました。神主は「あれは勝山でございます」と答えたのです。

家康は「戦いに先立って勝つ山とは嬉しいこの度の戦いに勝利すれば、5つの碁石金（碁石の形をした金）と社領を寄進しよう」と言って進撃して行ったのです。

その後、家康は天下を取り、約束通り碁石金3個と弓を寄進（寄付）したのです。

今でも、弓は梶本八幡社の本殿に大切に保存されています。



## (11) 江戸時代 (1603年～1867年)

関が原の戦いに勝利した徳川家康は江戸幕府を開き、家康、秀忠、家光の3代にわたって幕府や諸藩を中心に全国を統治する体制を作り、5代将軍は「生類憐れみの令」を出して殺傷を禁じ、平和な時代になった。

こうして、都市が発展し、元禄文化が花開く。

しかし、平和な時代にも天災や飢饉も数多くやってきた。

天明の大飢饉では何万もの人々が飢えて亡くなったり、宝永の大地震、安政の大地震などでも多くの人々が亡くなった。

江戸後半になると、外国船がしきりにやってきて開国を迫った。そして、尊皇攘夷の運動が起こり、天皇を中心とした新しい国を作る運動へと発展して15代将軍徳川慶喜が朝廷に政権を返した。

### ①良い政治をした吉田藩主たち

三河は徳川家の出た地ということで、三河出身の武士は旗本や大名に取り立てられ、有能な人材が吉田藩の領主となり、領民のための政治が行われた。

#### 馬越の本郷の池

馬越の本郷に池がありました。この池は室町時代以前からあった池であります。

江戸時代、徳川家綱の頃、人口が急増し、田んぼも開墾して増えました。必要なものは水であります。

そこで、この地方の地頭、小笠原外記の設計で村内の白井清右衛門を池奉行に命じて池の拡張、整備したのです。

池の大きさは、広さ1町余、堤防の高さ5間（約9m）で、11,993人の人を動員して造ったそうです。

この池に溜められた水は、田んぼに流し、米作りに利用したのです。

池奉行だった白井清右衛門は、元禄16年に亡くなりますが、村の人々は、その功績を称えて、碑を建て、毎年供養しているそうです。



なかでも、豊川一帯は、洪水に悩まされた地方のため、よく知られている鎧堤や橋や灌漑施設などを造り、多くの領民のために尽くした。

農民は、手で耕したり、牛や馬を使って耕して田んぼに米と麦を作る、いわゆる二毛作をするようになった。稲の収穫が終わると田んぼの稲の株抜きをして、畑にして麦を播いた。そのためには、米の時は水を入れ、麦の時には水を抜いて乾燥した田んぼにしなければならなかった。



そこでできたのが灌漑施設である。堀や溝を

掘り、川をせき止めて水位を上げ、堀や溝から田んぼに水を入れる水門をつくった。今でも下条の大江川の水門は利用されている。堀から田んぼに水を入れる足踏み水車などもあった。

### ②便利な農具が出回ってきた（中期）

この頃になると農業用の機具が発明され、便利になった。

下の挿絵の左が千歯こきで、稲穂からもみをとる道具。中央の唐箕（とうみ）は、唐臼（からうす）ではがした米ともみがらに風を送って分ける道具である。右は良い米粒と悪い米粒を区別する千石とうしである。



農具のいろいろ

校区内の農家の古い倉庫のかたすみに、こうした農具が残されていると思われる。

### ③馬や牛と同居して、肥料は人や家畜の糞が中心であった

農産物としては米や麦の他に、人参、大根などの野菜や、そば、お茶、果物など多くの種類の作物が作られるようになった。

桑畑は開墾などで増え、蚕を飼って絹糸を作り、布を織るのは農家の女性の仕事であった。

肥料は稲穂を採った残りのワラなどを燃した灰、ワラや樹の葉などを腐らせた堆肥などが使われるようになったが、家畜の糞や人間の糞尿が中心であった。



天秤棒で人糞の入った桶を前後にかつぎ、畑に肥をまいている光景が戦前までよく見られた。家の中では家畜と同居して、糞

は垂れ流し、人も家の中か玄関先などに糞つぼを埋め込んだ小便場と、糞つぼに両足が乗れる板2枚を置いただけの簡単な便所を使っていた。

そのため、相変わらず麦ワラぶきの粗末な家に住んでおり蠅や蚊がいっぱいいたと思われる。

着物は麻と木綿に限り、日常の食べ物はひえ、粟、麦にするよう「お触れ書き」で細かく決められていた。

### ④年貢は収穫の半分を納めていた

年貢は田や畑の収穫の40~50%（四公六民から後に五公五民）を納めることになっていた。

また、米は俵（たわら）につめて、名主を中心に農民が吉田藩の米倉に大八車や馬で運んでいた。

馬越のように遠い所からは、馬で数時間かけて運んだ。やがて、貨幣経済が農村にも浸透してきて、年貢の3分の1をお金で納める事ができるようになった。



### ⑤にぎやかになった姫街道

江戸時代、東海道の脇街道として道中奉行の支配下にあったのが本坂通（ほんざかとうし）であった。

三ケ日を経て本坂峠を越えて、嵩山、長楽、和田から豊川を渡り、当古から古宿、東海道御油宿に至る十五里十四丁（約60km）の街道である。

この街道はかなり古くから利用されていた。宝永4年（1707）富士山が噴火し、大地震がおき、浜名湖の入り口を大津波が襲い、今切の渡航ができなくなった。そこで、大名行列や荷物を運ぶ人とともに、一般の人々もこの本坂峠を越えた。

嵩山宿では16頭の馬を持っており、本陣、脇本陣などの大名の宿泊は庄屋の家でまかされたといわれている。

当時、村には70軒ほどの家があったが、町並みは40軒ほどで、道幅も狭く1,000人、2,000人の旅人たちや馬が行き交い、大変にぎやか

であったと思われる。

長楽の秋葉燈の下に「右豊川、左豊橋」と書いた道標がある。

これは明治になって造られたのではないと思われる。



長楽の道標

この付近には茶店などが数軒、床屋（髪結い）が一軒あったといわれている。

今は、現代風の家がたくさんでき、昔の面影はないが、戦前は狭い道路の町並みであり、店も2軒ほどあって昔の面影を残していた。

和田を通る昔の姫街道は今の花井商店の南の細い道に入り、中電の寮の北、上田農機具



旧姫街道の一部

店の北を通り、高井城址の近くの袖きり坂から大塚モーターズ、小倉橋へ出るコースではなかったかと考えられている。

### 稲荷街道と姫街道

江戸時代、「入り鉄砲と出女」の詮議や東海道の厳しい関所改めを避けて、この裏街道を女たちが行き交っていました。



その中には大名のお姫様や腰もとたちの姿もありました。そんなことから、いつしか、姫街道と呼ばれるようになりました。

当時は、「ひね街道」（古い街道）「二見路」「本坂道」「本坂往還」「稲荷街道」などと言われておりました。

当時の旅は、危険が多く、猪やおおかみなどの獣や追いはぎなどが出没していました。

また、天候の急変などで生死の境に身をおくような事がいっぱいあったのです。

古老の話では、寂しい峠を越す時は「稲荷街道だからお稲荷さんが守ってくれる」「お稲荷さんは女の見方だから」・・・と励まされて峠を越したそうです。

なお、石巻中学校の校庭の南をつききって、大杉電気店の北に出て、杉浦建築の南、林さん宅の南を通り、花井さん宅の東から馬頭観音のある所に出た、という説もある。

そして、小倉橋から堤防に出て、渡船で当古へ出る。堤防から渡船場へ行く道が今でも残っている。

時代は変わって、昭和9年に当古橋がかけられたが、この当時の渡船場は、今は竹やぶになっている。

### 袖きり坂

高井城跡の東から2本松へ出て行く道（途中に大塚モーターズがある）を昔、袖きり坂と



呼んでいました。ここで倒れると袖を切られると恐れられていました。

今は少し広くなりましたが、雨降りなどの日は昼間でも暗く、今でも、人はめったに通りません。

### ⑥別所街道

青陵中学校の西を通り、森岡の大鳥居を抜けて、お茶屋橋、和田辻を通して新城に行く道を昔から「別所街道」と呼んでいる。

この道は、平安時代中頃からかなり整備されて現在に至ったものと考えられる。

新城から奥は、明治になって拡張、整備されたが、以前は崖や峠のある難所続きの街道であった。この名前は長野県にある別所温泉に関わるものと考えられる。

宝飯郡や渥美地方を中心に「善光寺仲間」というグループが今でも残っている。浄土宗の年輩の女性十数人のグループで、通夜の夜、棺を真中に置いて念仏を唱える。大勢の女性の力は成仏を促すと考えられていたのである。こうした人たちは年に一回は善光寺参りをし

ていた。別所街道をいく日もかけて歩き、途中で別所温泉に立ち寄って、その疲れを癒し、身を清めて善光寺にお参りした。

同じように、奥三河の山あいや南信濃地方の山あいには、人馬が通れる程度の細い道がたくさんあるが、この細い道を秋葉街道といっている。

昔の人々の生活は、全て神仏に頼っていた。火の神様である秋葉神社へのお参りもその一つで、現在でも町の代表が秋葉神社参りをしている所が多い。

別所街道の名前も、こうして付けられた名前ではないかと考えられる。

### ⑦お茶屋橋

長楽の秋葉燈の道標を左にとって行くと農協の南を通り、丸善モータースの所から別所街道に出る。そして、日南坂を下るとお茶屋橋である。このコースは昔、姫街道を利用して来た人たちが吉田（豊橋）へ行く枝道だった。

お茶屋橋付近は当時、三輪川と神田川の合流地点で、広い砂原と豊かな水に恵まれていた。

また、その上流は入り組んだ地形で、樹齢数百年をこえる大木が多くあり、いろいろな動物がたくさん住んでいる谷あいであった。

石巻山麓を通り、神田川をさかのぼり、月ヶ谷あたりまでは狩場として最高の場所であった。

吉田城主は家来や奥方、姫君を連れて、ここをたびたび訪れて狩りを楽しんだといわれている。

そして、城主たちの狩りが終わるまで、奥方や姫たちは、広い砂原と豊かで澄み切った水のある川辺で遊んだり、橋の近くにある茶



現在のお茶屋橋

店で休んでいた。その光景は美しい絵のようだったといわれている。やがて、いつの間にかこの土橋が「お茶屋橋」といわれるようになったと思われる。

### ⑧和田の渡辺家は渡辺綱の子孫だった

この頃、和田近辺は西郷氏の配下にあったと考えられるが、詳しいようすは資料もなく不明である。

恐らく、高井城は荒れ果てた原野となり、和田城内も土塁や堀は埋められて道路や畑となっていたと考えられる。そして、当時の面影はなく、寂れてのどかな農村となった。

和田の春興院の東側に「渡辺の古屋敷」といわれている場所があった。北側は馬越川に面して10mの崖で、西には幅2mの堀割があり、東側と南側は高さ1m、幅1.5mの土塁が残っていた。中は1,000㎡ほどあったが、今は何も残っていない。

渡辺氏は、室町時代に京都の嵯峨野付近から当地に移って来た。

春興院にその系図が残っている。それによると、「松平清康、広忠に仕えて旗本の組頭となり、初めて和田村において来地を賜り、永禄9年(1566)病死、法名、端光院殿梢月常林庵主。子、新蔵清(図書助)は家康に仕え元亀一年(1570)死去、春興院に葬る。法名、威徳院殿石津宗虎禅定門」とある。



春興院の五輪の塔

また、現在、春興院の墓地には3基の五輪の塔がある。これは渡辺氏3代の墓である。

居城は和田城であった。その中心が渡辺の古屋敷であると思われる。

梶本八幡社所蔵の藤社の棟札には「延徳3年(1491)大檀那、渡辺雅助」とある。戦国時代の初め頃、牧野一族が豊川の牧野に移り住むと入れ替わり



梶本八幡社の棟札

に地頭職として京都の嵯峨野から和田にきたものと考えられる。

そして、西郷氏の傘下に入り、和田郷の豪族として神社の造営などに貢献した。

渡辺一族は代々この地に明治初期まで住んでいた。

その後、最後の子孫が東京に移住したが、消息は不明である。

渡辺氏の祖先は、大江山の酒天童子を退治した源頼光の四天王の一人で、羅生門に出た鬼の片腕を切った渡辺の綱の子孫だったといわれている。

### ⑨この頃の子どもたち

この地方にも、江戸時代から明治の初めにかけて「寺子屋」があった。



寺子屋

寺子屋の師匠は今のように特定の資格はいらなかった。

生徒も武士、僧侶、町人、百姓など、どんな職業の子どもでも行けた。

場所も、大勢の子どもたちの集まることのできるお寺を使って行われた。和田に2軒、馬越、長楽、高井、神ヶ谷にそれぞれ1軒ずつあったが、生徒は7人から10人程度であった。

いずれも天保元年頃から明治6年まで行われた。これらの寺子屋では、学問の神様「菅原道真」が祀ってあり、床の間には菅原道真の画像が掛けてあった。

「読み」「書き」「ソロバン」が中心で、習字が多く、読書やソロバンのない所もあった。

この頃の男の子は水汲みや風呂わかし、女の子は子守りや洗濯の手伝いがあたりまえで、忙しい時には親といっしょに田んぼや畑に出て働いた。

農休みや正月には凧揚げ、竹馬、こま回しなどをし、家の中では、名所を巡り歩く道中物などの双六(すごろく)をして遊んでいた。



子どもの遊び

### (12) 明治時代 (1868年～1912年)

江戸幕府が滅び、天皇を中心とする新しい政府ができ、様々な大改革が行われた。

廃藩置県、華族・士族(元武士)・その他を平民とした四民平等、義務教育制度、徴兵令などである。

新政府の目標は、一日も早く、日本をヨーロッパやアメリカのように文明の進んだ国にすることであった。

まず、国を豊かにし、軍隊を強くする政策をとり、西洋にならって教育、軍隊、税金などの制度を作った。また、産業を興し、電信、郵便制度をはじめ、鉄道を敷設したり、官営工場を造った。

日本はこの富国強兵政策により、朝鮮半島に勢力を延ばそうとした。これが、日清、日露戦争である。

### ①豊橋県の誕生

明治4年、廃藩置県の結果、豊橋県となり旧吉田藩の領地をそのまま受け継いだ。

その領地は、神ヶ谷、森岡新田、高井、和田、長楽、馬越などの八名郡の他に、宝飯、渥美、設楽など246か村であり、複雑な形で存在していた。

さらに、県内を500戸単位の戸籍区に分け、区ごとに戸長が決められ、郷社が一社ずつ指定された。

この地方は13区で金田、神郷、森岡新田、神ヶ谷、高井、長楽、和田、長彦、嵩山であった。

その半年後、大区、小区制になり、戸籍整備のため戸籍取締り所が設けられ、従来の庄屋がなくなって、村には総代が置かれるようになった。

そして、郡には郡長と郡役所、町村には戸長と戸長役場が置かれ、戸長の下に筆生がおり、事務をとる年行事（後に組長と名前を変える）は村内の連絡、統率をするようになった。

また、村には学務委員、衛生委員、農業改良委員、地籍委員、土地台帳取り調べ委員、虫害駆除委員、蚕業世話係など、行政組織が作られた。その後、戸長は村長と呼ばれるようになった。

### ②小学校の始まりと子どもたち

明治の初め小学校の設立は様々な過程を経て西郷、玉川、嵩山、三輪、多米の5箇所に地名の名前を付けた尋常小学校を置くことになった。当時の義務教育は4年制だった。子どもたちは「勉強しろ」といわれることは余りなく、友達といっしょに良く遊んだ。

男の子は陣取り（釘を地面に立つように投げてそこに線をひいて陣地を広げる）、凧揚げ、めんこ、竹馬、こま回しなどで、女の子は、

まりつき、お手玉、縄跳び、おはじきなどをして遊んだ。

特に、日清、日露戦争があったので、戦争ごっこに人気があった。

男の子は軍人になることにあこがれており、女の子は、家族が多かったので弟や妹の子守りをするのがあたりまえであった。そして、農家では重要な働き手として、家の手伝いをするのが普通だった。



兵隊ごっこ

陣取り

女の子の子守

### ③この頃は大部分が農業で生活していた

この頃は大部分の人たちが農業で生活しており、米、麦などとそば、あわ、ひえ、さつまいもがかなりたくさん作られていた。

これらの雑穀類で、米、麦の不足分を補い、その他、大根、人参などの野菜類や茶、綿藍、菜種などを作っていたようである。もちろん、蚕を飼う桑畑はあった。明治の後半になると麦の生産が急激に減り、桑畑が多くなる。

明治の中頃から官営工場ができたり、八幡製鐵所ができて、産業革命が行われる。豊橋でも製糸工場が造られ、全国でも2つしかない豊橋乾繭取引所が設立されて全国一の繭の生産地になっていた。和田では、今の給食センターあたりに、繭の集荷場があった。

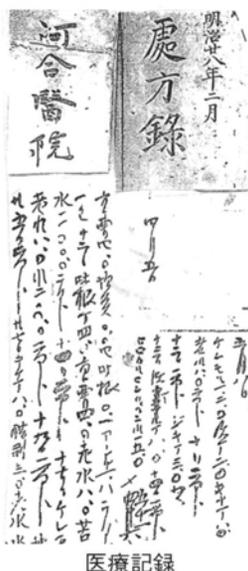
この地方でも農民は畑を桑畑にして、繭の生産に励んだ。これが農家の大きな収入源となっていた。

畑で桑の木を育て、桑の葉っぱを一枚一枚つまみ、蚕に与えて蚕の幼虫を育て、蚕が成虫になり、繭ができるまでの面倒を夜も昼も見

たのである。これは、田に稲を植えてヒマができた農閑期の仕事で大変だった。

しかし、かなりの収入があったので、草ぶきの家から瓦屋根の2階建ての家を建て、2階を蚕の飼える蚕室にしたり、肥料や農具を買い少しずつ豊かになっていった。

#### ④和田のお医者さんは名医だった



医療記録  
診記録や薬草を粉にして薬を作る「やげん」などが残されている。

和田のお医者さんは、河合正夫さんの先祖で名医だった。特に火傷などの治療が上手で、すぐ治ったといわれている。隣に住む、ひげを立派に生やした白井玉次郎さんの引く人力車で、遠くまで往診に出かけたといわれている。

河合さん宅には往

#### ⑤弟子入りした豊田佐吉

現在木型工場を経営しているTさんの先祖が分家して、姫街道沿いに居を構えた。

この先祖は三河随一の宮大工で、その巧みの技を後進に伝えようと多くの弟子を育てていた。

和田には宮大工が多くいる。現在の杉浦建築さん一族の祖先もその弟子の一人であった。

ある時、三ケ日から若者が、この優れた宮大工を訪ねてやって来た。その若者は豊田佐吉であった。佐吉は弟子入りをして数ヶ月で、この巧みの技を身につけて故郷の三ケ日に帰って行った。

その後、豊田佐吉は布を織る機織り機を発

明し、その機械を生かした工場を造り、これが大きな紡績工場へと発展した。そして、現在のトヨタ自動車を築く先がけとなった。

最近、Tさん宅に、トヨタ自動車の社史を作るための取材があった。

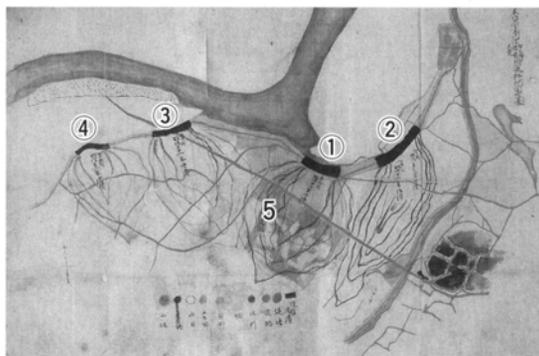
#### ⑥何回も決壊した鐘が淵

豊川の本流はめまぐるしく変って来た歴史がある。宝永の大地震と大津波で、現在の川筋になったといわれている。

当時の堤防は流れてきた土砂にかさ上げたもので、現在よりもかなり低かった。だから、堤防から水が溢れて決壊することが多かった。

次の地図は高木定さん秘蔵の大きなカラー地図を縮小したもので、当時の決壊の様子がよく分かる。なお、地図の5は山林であり、開拓されたが放置された所である。

こうして、たわわに実った稲や家屋を押し流し、大きな被害を与えていた。



決壊した鐘が淵

- <①は明治26年 173m 2ヶ所決壊>
- <③と④は明治31年 166m 2ヶ所決壊>
- <②は明治37年 72m 1ヶ所決壊>

昭和の初期から始められた堤防工事のでき上がったのが、現在の堤防である。昔の堤防より3~5mほど高いし、豊川放水路ができたので、決壊や水害などはほとんどなくなっている。

なお、当古橋から下条橋に行く途中に曲がりくねった昔の堤防がみられる。

今の堤防は全体が二段になっており、低い方が昔の堤防の高さである。

### (13) 大正時代から昭和の初期

(1913年～1945年)

明治45年(1912)明治天皇が崩御され年号が大正に変わるが、国民のくらしは日露戦争のための外国からの借金の返済や、増える軍事費などで重い税金に苦しめられていた。

そのうえ大正12年(1923)関東大震災が起これ、火災が広がって東京や横浜などがほとんど焼け野原になり、死者、行方不明者が14万人を越えていた。

大正天皇が崩御され昭和時代に入ると、軍国主義の色が濃くなり、ついに太平洋戦争(第二次世界大戦)になるのである。

戦況は後半悪くなり、本土に近いサイパン島が奪われ、B29の空襲が多くなり、広島や長崎に原子爆弾が落されて昭和20年(1945)日本は降伏した。

#### ①自然の中で遊んだ子どもたち

明治時代に比べると、大正時代の子どものたちは生活もずいぶん楽になり、いろいろなことができるようになった。

ただ、現在に比べると、遊び道具はなかったが自然に恵まれ、のびのびと遊んでいた。

夏休みになると決まって豊川の鐘が淵や当古橋近く、神田川、馬越川などで水遊びをした。

洪水で流れついて砂場に放置してある流木を集めていかだを作り、水中にもぐって鮎やウグイを引っ掛けて捕らえたりして遊んだ。

また、一日に2～3回やってくる「いかだ」を見るのが楽しみであった。「いかだ」は80mほどの長さに組んで、2人の「いかだ師」がたくみに流れの速い深い所を通っていく姿に感動したものである。

子どもたちの服装はほとんど着物であったが、昭和の初期になるとボタンつきの洋服やセーラー服を着る子どももでてきた。

寒い時には、みんな「半纏(はんてん)」という綿入りの丈の短い防寒用の着物を着た。

男の子の「半纏」の袖はどの子も拭いた鼻水で光っていた。

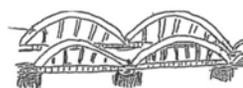
弁当はご飯をつめた弁当箱の真ん中に梅干をのせた日の丸弁当で、履物はワラぞうりがほとんどであった。

#### ②当古橋の欄干の上のアーチを歩いた若者たち

和田や高井の若者たちは、夏になると豊川に河岸路(林さん宅からお宮の南に出る路)を通り泳ぎに行った。

昭和9年に当古橋ができてからは、川ではなく豊川市の色町まで足を伸ばしていた。しかも歩いて行ったのである。

古老たちの話によると、当古橋を渡る時は幅55cmほどのアーチの上を歩いて遊びながら



当古橋のアーチ

渡り、豊川へ行ったとのことである。

#### ③農家の食事は相変わらず粗末な物だった

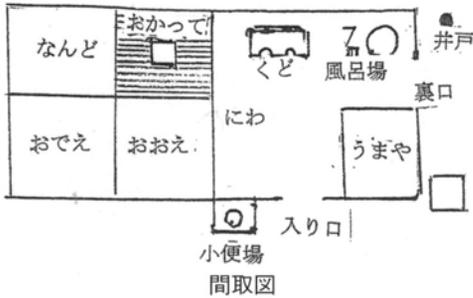
昭和20年代の後半まで、この地方の農家の日常の食事は米に麦をまぜて炊いた麦飯に、味噌汁と漬け物ぐらいで、時にはおかずを一品か二品つけるような粗末なものであった。

明治の終わり頃までは米や麦に加えて、あわ、ひえ、きび、里芋などが主食であった。

さつま芋やそばなどが大切な代用食であった。動物性たんぱく質は、川魚や野生動物、イナゴなどの昆虫で、家で飼っている卵を産まなくなった鶏、兎も年に数回しか食べられないご馳走だった。

④家によっては箸やおわん(茶碗)を洗うのは月に一回ぐらいだった

この地方の農家は、東の土間を「にわ」、表側の東の間を「おおえ」、西の間を「おでえ」、裏側の西間を「なんど」と呼び、煮炊きする「くど」(今は電気やガスを使っている場所)は「にわ」にある家が多かった。



井戸は裏にあり、煮炊きに必要の水は井戸から汲んで、土間に備えた水がめに溜めておき、井戸端で野菜を洗ったり、米をといだりした。

昔は「つるべ」といって紐の両端に水桶を結び、滑車をつけて深い所にある水を汲み上げたり、紐を水桶につけて井戸に下ろして汲み上げている家もあった。

しかし、この頃になると手押しポンプで汲み上げるようになった。それでも、お風呂を沸かすことは大変な仕事だった。これは主に子どもの仕事になっていた。

食事をする所は「おかつて」で、箱膳といって茶碗や箸を入れる四角い箱に蓋をして、その上にご飯などの食べ物を置いて食べた。

この箱膳は一人ひとり持っていて、食事が終わるとお茶や湯ですすいで汚れを落として箱膳にしまった。だから、家によっては箸やおわんを洗うのは、月に一度ぐらいだった。

⑤ほとんどワラ葺きの家だった

古老の話によると、和田では戦前までワラ葺きの家がほとんどで、瓦屋根の家はお寺と大家さんの家だけだったとのことだ。



釜屋建

間取りから、恐らく釜屋建(かまやだて)の家が多かったと考えられる。

釜屋建ては本屋と釜屋の屋根が分かれた二棟造りの家で、二つの棟のつなぎめには丸太をくり貫いた樋があり、屋根の雨水は前に流すようになっていた。

表側に風呂があり、裏側に流しがあつた。

⑥風呂と便所

風呂は、五衛門風呂(地獄風呂)が多かった。この風呂は大きな桶の底に鉄の底をつけ、透き間に縄を埋め込んで水が漏れないようにして水を入れ、鉄の下から火を燃して風呂を沸かした。

風呂に入る時は桶の大きさに合わせた円形の板を敷いて、鉄の底の上にはまるようにして入った。

また便所の様子は、小便場は風呂場近くか入り口に小便甕が埋めてあり、そこで用をたした。男性は立って、女性は甕をまたいで中腰になって用をたした。

大便場は家の近くの小屋にあつた。昔は土の中に埋めた甕の上に板を敷いただけであつたが、この頃は板でできた便器になっていた。

⑦戦争中のようすと学校

戦争中は、生活物資はもちろん、学用品も自由に手に入らなかった。

ノートがないため、家にある使い古しの紙をノートがわりに使い、鉛筆も粗末に扱わず削れなくなるまで使った。

昭和15年から20年まで物を自由に買うことができなくなり、運動靴や服、靴下、ノートも学校を通して配られた。

しかし、アメリカ空軍の空襲がはげしくなった戦争末期には配給もなくなった。

そして、大型爆撃機B29が豊橋の上空にも現れるようになり、警戒警報202回、空襲警報が45回もあった。

子どもたちはサイレンの音で警報が出るたびに防空頭巾をかぶって通学団ごとに帰宅した。



学校の窓ガラスには爆風でガラスが飛び散らないように十文字と斜めに紙を張った。



空襲

校庭や川原を開墾して芋を作ったり、竹槍で戦う練習をした。

昭和20年6月19日の夜半、豊橋大空襲があり、市街地は焼け野原となった。その時は玉川から見て南の空が真っ赤に染まった。

## (14) 大きく変わった終戦後

(1945年～ )

主な都市は焼け野原になったが、苦しい敗戦から立ち上がり、戦後の復興に全力を尽くし、様々な過程をへて、今は世界の中の経済大国になった。

特に科学や産業技術では世界のトップレベルの座を維持している。工場ではコンピューターで操作する工業用ロボットが活躍している。

江戸時代まで漢方薬医療が中心であった医療も、高度な手術や薬のおかげで、長寿社会となっている。

### ①世帯数も人口も倍増した

戦後から高度成長期にかけて、神ヶ谷、和田、高井では多くの家が建てられ、人口も急に増加した。

玉川校区の国勢調査の記録によると昭和30年には503世帯2,722人の人口が、平成12年には1,599世帯5,274人と大きく増加している。

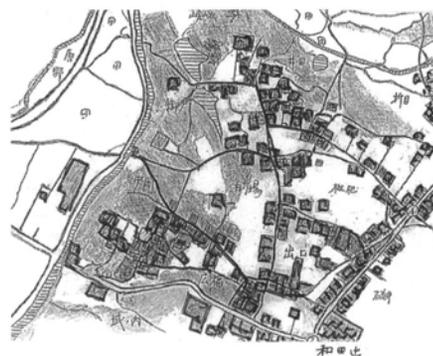
次の図は、高木定さん秘蔵のカラー地図を複写、縮小した和田地区の一部である。



旧住宅図

この地図は明治20年前後のもので、森や林、原野がいっぱいあり、豊かな自然に恵まれていた。原野の中には多くの古井戸が今でも残っている。昔、この原野の中にも住居があったが住む人もいなくなり放置された所も多いと思われる。

次の図は前の古地図に現在の宅地や住宅を書き加えたものである。



平成の和田地区の一部

これを見ると、原野や森を開墾し、畑にしたり住宅を建てていることが分かる。

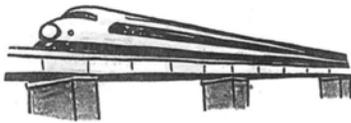
特に、和田辻を中心に、今まで畑だった別所街道沿いに住宅が多く建てられている。戸数も人口も倍以上増加している。

ガソリンスタンド、喫茶店、理髪店、医院など多くの職種の人たちの家が立ち並んでいる。

そして、以前は農家がほとんどであったのが、今では公務員や会社員となり、その片手間に農業をしている人が多くなった。

### ②高度成長期に入り、生活が一変した

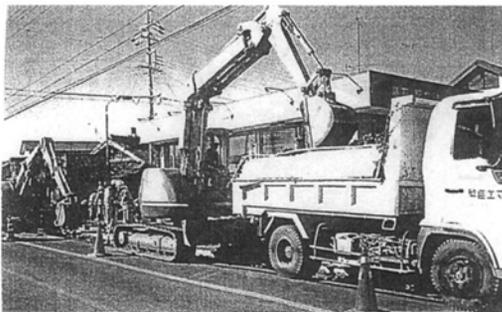
終戦から約20年間は戦後の復興期であった。それ以後は新幹線が走り、高速道路が全国に張り巡らされ、自家用車やトラックが走り、ジェットエンジンの飛行機で外国へも気軽に出かけられるようになった。



新幹線

一方、様々な生活用品が開発され、その豊かさはピークに達している。水道が完備され、風呂、炊事、洗濯、冷暖房などスイッチ一つで用が足せるようになった。

また、情報源も昔は飛脚便や瓦版などでしかなかったが、今ではテレビ、電話、新聞、雑誌等あふれるほどあり、特に携帯電話はいつでもどこでも利用できるようになった。



サークルK付近の下水道工事

農作業や土木作業は全て手作業であったのが、機械がやってくれるようになり、汗と泥にまみれた生活は遠い昔の話となってしまった。

しかし、この豊かさゆえに、我慢する心、

耐える強さを失っている人が多くなったと警鐘をならす人もいる。

### ③頑張っている玉川小と石巻中

現在のように豊かになったのは、エネルギー資源の石油と人間の英知のおかげである。

しかし、その石油によって地球温暖化の危機にさらされ、その石油をめぐって世界の平和が脅かされている。

「歴史は繰り返す」という言葉があるが、今後、苦しい時期もあることが予想される。私たちの祖先が苦しみに耐え、乗り越えてきた歴史を思い出し、貧に処する心構えや教育が必要である。

校区の玉川小や石巻中ではこうしたことを考慮に入れて熱心に教育を進めている。

特に石巻中学校では石巻山道の全校登山マラソンなどを年中行事としており、中学校駅伝全国大会に何度も出場し、大きな実績をあげている。



### 伝統の「登山マラソン」開催 豊橋市石巻中学校

約2・7キロを各学年の男女別にスタートし、石巻山道の約2・7キロを走り抜けた。

豊橋市石巻中学校(公認正統)長生部員438人は6日、「石巻登山マラソン」を開催し、石巻運動広場を各学年の男女別にスタートした生徒は、石巻山道の約2・7キロを走り抜けた。

このマラソンは毎年、豊橋市立石巻中学校(公認正統)長生部員が主催する。今年も19回目を迎えた。今年も石巻山道の約2・7キロを走り抜けた。今年も石巻山道の約2・7キロを走り抜けた。

石巻山を楽しく走り抜ける

## (15) 戦後の耕地整理

### ①農地改革

敗戦による占領政策の一環として一方的に行われたものに農地改革がある。石巻村においては昭和20年11月、第1回の農地委員会開催以来、計44回の会議を開き、小作地買収計画の実施を行った。政府は地主の農地を極めて安い価格で買い上げ、これを小作者に売り渡し、小作者を自作農家に仕立てた。

### ②道路改修工事

昭和27年お茶屋橋以北県道改修工事、昭和35年市道野添線改修工事が実施された。

### ③神田川の改修

神田川は、川幅が狭く、川筋がうねり、堤防の不完全箇所が数多くあったため、増水のたびに氾濫した。そのために、田畑を荒らし、人家を水びたしにし、県道を洗い、被害が続出した。昭和26年から3か年を費して川幅を増幅し、堤防を強固にした。

### ④土地改良事業

昭和30年に二川町・石巻村・高豊村・老津村・前芝村の1町4村が豊橋市へ合併した。双和村（賀茂地区）・杉山村は豊橋へ分村合併した。そして、昭和31年豊橋全市域が都市計画区域となった。

#### ア 三輪川の改修

昭和39年、寺前橋から神田川合流点までの工事に着工し、昭和41年に完成した。

#### イ 高井中部地区土地改良事業

中野地区に続いて高井中部地区の農道整備と排水路の完備が行われた。この地域は石巻本町と下条東町で昭和49年工事が完工した。

#### ウ 高井第1地区土地改良事業

石巻本町と牛川町の排水路の改修で湿

田を乾田化する工事が行われ、昭和48年に完工した。

#### エ 嵩山・長楽地区土地改良事業

水田地帯の区画整理で、昭和48年完工した。

#### オ 高井第2地区土地改良事業

石巻本町と石巻町の農道整備と湿田を乾田化する工事が行われ、昭和48年に完工した。

#### カ 和田地区土地改良事業

農道整備と湿田を乾田化する工事が行われ、昭和51年に完工した。

### ⑤中野土地区画整理事業

中野土地区画整理組合の設立が昭和46年6月28日付で愛知県知事から認可され、8月より工事に着手した。昭和49年に森岡町名を告示し、完工した。

### ⑥石巻高井地区農業集落排水事業

平成12年より、石巻本町および周辺地域内に下水道整備事業の円滑な促進を図り、水路・河川等の水質汚濁の低減と生活環境の改善を目的として、石巻高井地区下水道組合が設立され、事業が進められている。

この事業は、平成12～20年度の9年間にわたって行われ、整備面積は玉川小学校区を中心とする約208ha、下水道本管敷設総延長距離は約36,000mである。完工すれば、個人・事業所・公的施設などで約884口の取付管が設置され、下水道管との接続がされる予定である。

最終処理施設の石巻高井浄化センターも完成し、平成17年4月1日から供用開始している。

## (16) 新しい町

森岡町は以前、石巻本町字中野と字峠、字狭間の一部だった。大部分は畑、周辺部は雑木林、典型的な農村だった。

昭和45年市街化区域、調整区域の線引きに伴い、市街化区域に編入された。それに先立ち43年より区画整理研究が始まり、46年中野土地区画整理組合が発足、49年7月に完工した。面積は約10haである。整理に伴い字峠という地名はなくなった。

昭和49年5月1日をもって森岡町が発足した。

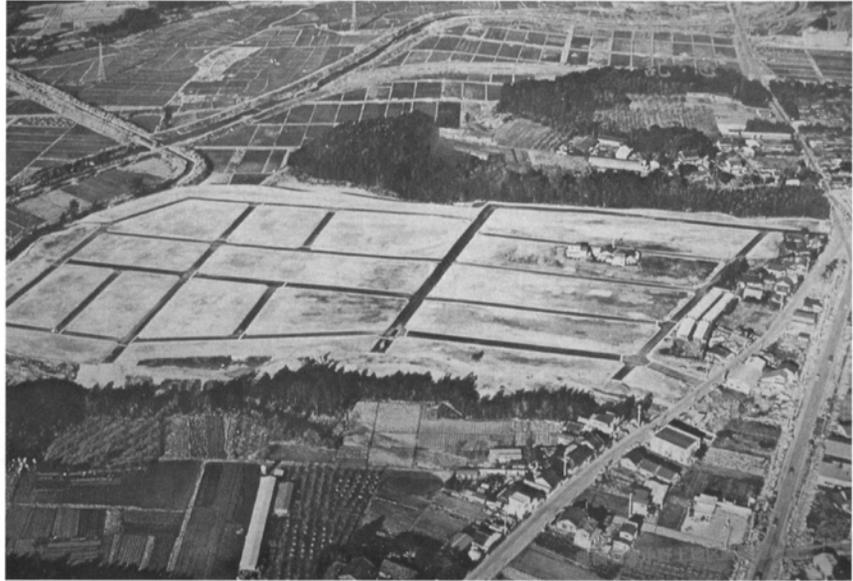
区画整理中に弥生式の土器が発見され、緊急発掘の結果竪穴式住居跡が見つかった。古老によると森岡町の南側の谷筋からは土器がたくさん出てきたという話である。

区画整理以前から現在まで住んでいる家は6戸だけある。

また、東森岡は大企業を豊橋に誘致するにあたり、隣接する牛川とともに昭和36年から52年にかけて区画整理が行われた。

準工業地帯に指定された。区画が広く、100以上の工場・商店が建った。整理に伴い、旧神ヶ谷地区の面積が減少した。牛川通五丁目の北半分は、以前は神ヶ谷地内であったので、神ヶ谷地区の付き合いをする人と牛川地区の付き合いをする人ができた。また、整理に伴い、国隠という字名が消えた。現在はバス停に国隠の名が残っているだけである。昭和53年3月16日より東森岡一・二丁目が発足した。

52年度に森岡町・東森岡ともに豊橋市総代会に加入した。



区画整理中の森岡町

新しい町には新しい文化がつけられる。神ヶ谷・森岡・東森岡を神ヶ谷三町と呼び、新旧住民の融和、新住民同士の親睦、また老人と子ども、その父母たちの交流の場として「筍食事会」が昭和55年より始まった。4月29日に筍供養と花祭り（お釈迦様の誕生日を祝う）を行い、そのあと筍狩りをし、筍御飯を食べる。

筍矢神社の神輿も、何も無いところから作るため軽トラックを改造し、神輿に仕立てた。また筍矢太鼓も作られた。

新しい町も30年がたち、今は年配者の夫婦だけで暮らす世帯がふえてきた。



筍矢太鼓

## 2 現在の玉川校区

### (1) 玉川校区コミュニティー

#### ①校区の状況

玉川校区総代会は、次の7町の総代会で組織されている。加入組数、世帯数は次に示す。

総代会	組数	加入世帯数
石巻本町馬越	5	55
石巻本町長楽	9	186
石巻本町和田	10	257
石巻本町高井	31	310
石巻本町神ヶ谷	13	98
森岡町	36	341
東森岡	20	245

平成18年4月1日現在

#### ②玉川校区コミュニティーの組織

コミュニティーとは地域社会共同体のことであり、7町から選出された次の各種団体で組織され、運営される。

##### ア 各町から選出される役員

総代、副総代(会計)、総代婦人部、体育委員、交通安全委員、社会教育委員、防犯委員、清掃指導員、消防団員、民生委員、老人クラブ、遺族会、更生保護女性部、女性防火クラブ、子ども会、小学校PTA、中学校PTA、文化協会委員

##### イ 校区から選出される役員

保護司、青少年健全育成校区指導員、体育指導員、玉川校区市民館長、玉川校区市民館運営委員長、少年補導委員、石巻地区市民館運営委員

#### ③校区コミュニティーの推進事業

校区総代会が中心になって各種団体と共同して行う事業

#### ア 慰霊祭

慰霊祭とは日清日露戦争以来の戦没者の霊をなぐさめるため、遺族を招いて開催している。最近では5月下旬に校区市民館の中に仏式と神式の共用の祭壇をつくり、遺族99名を招待して行っている。今、戦争の悲惨さを伝える記事は多いけれど、戦争を始める動機はほとんど報道されない。



慰霊祭

#### イ ふるさと祭り

8月の第1日曜日、玉川小学校の校庭に櫓をくみ、盆踊りを行っている。体育委員会、PTA、子ども会を中心として各種団体が協力し準備や運営をする。PTAはバザー、子ども会は抽選会を担当する。玉川民舞会与森岡踊り同好会、体育委員が輪の中心になって踊る。また玉川太鼓同好会と箕矢太鼓が櫓の上で太鼓をたたく。校区の人々のほかに中部電力も協力してくれる。2,000人ほどの人が集まる。

#### ウ 体育祭

9月の第1日曜日に玉川小学校の運動場で行われる。校区内7地区の対抗戦である。綱引き、むかで競争、玉入れ、年代別競争などが行われる。人口の多い地区が勝つとは限らない。

#### エ 敬老会

9月の敬老の日の前の日曜日に開催し

ている。17年度の75歳以上の人口は427名だった。そのうち、150名が参加した。さながら人生のOB会である。余興も箆矢太鼓、大正琴、手品、踊りと多岐にわたって参加者を楽しませてくれる。

オ 校区文化祭

校区市民館の開館の年から始められた。最近は11月3日、文化の日に文化祭を行っている。大きく作品展と芸能発表に分けられる。作品展は文協の役員が中心になって集める。芸能発表は各発表団体が運営を担当する。校区内には、見事な作品を作る人が多い。

・作品展

盆栽・書道・絵画・俳画・編物・生花・手芸、陶芸・彫刻・写真・パッチワーク・キルト  
小学生の作品・その他

・芸能発表

太鼓演奏・カラオケ・民舞・大正琴



玉川校区文化祭

カ その他の活動

- 交通安全市民運動の推進
- 防犯活動の推進
- 青少年健全育成会の活動の推進
- 自主防災会の充実と防災意識の高揚
- 530運動の充実

(2) 産業

①農業

昭和20年代まではほとんどの家が農業で生活していた。昭和35年以前は米麦中心の栽培だった。高度成長期に入ると他産業に労働力を取られたものの専業農家も現れた。

第1章でも触れたが、この地区は果樹の栽培に適している。特に次郎柿は樹齢90年以上の木が現在も働いている。他にブドウ・桃・梨等が多く作られている。ビニールハウスではイチゴ・ブドウが主体である。バラ・食用菊を作る農家もある。Aコープに「ふれあい市」ができてから小規模の野菜販売が可能になった。畜産は戦後、有畜農業の掛け声とともに盛んになったが、家を空けられないことと公害意識の高まりで減少してきた。現在では10人もいない。



ふれあい市に並ぶ野菜

②豊橋農協石巻支店と第6事業所

昭和23年6月、石巻村農業協同組合として発足し、豊橋市石巻農業協同組合、豊橋市北部農業協同組合の本店として石巻並びに牛川地区の農業の発展に中心的な役割を担ってきた。平成9年には市内の農協が合併し、豊橋農業協同組合石巻支店となった。

その間、和田狭間田地内に昭和49年に育苗センター、61年にはライスセンターが建設さ

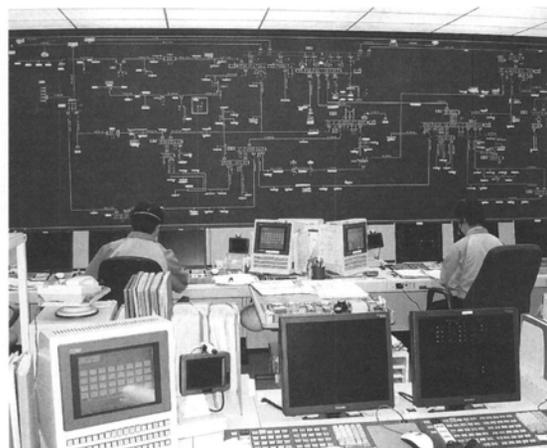
れた。また、54年に営農センターが同所に移された。育苗施設は現在使われていない。

豊橋農協と合併当初、和田狭間田地内の施設を第6事業所としたが、平成13年に和田太夫橋に営農センターと選果場（石巻平野町より移転）を造り、そこへ移設した。

ここでは、桃、梨、柿の共同選果が行われている。選果場に運ばれた柿は、人手により傷果とやわ果が除かれる。選果機で色により秀、優、良に分別され、さらに大きさ別に分けられ、箱詰される。16年度、柿は2,400t、梨は354t、桃は74tが共同選果された。ブドウ、メロン、ミニトマト、イチジク、野菜類は選果機を通さず箱詰し出荷している。

### ③中部電力豊橋電力センター

大正11年、岡崎電灯株式会社・玉川開閉所として開設された。以後会社名も変わりながら順次拡大された。現在は東三河の電気の移動を一手に管理すると同時に、発電・変電・送電の設備の保守点検を行っている。なお、現在の職員は約100名である。



豊橋給電制御所

### ④鉾山

長楽地区では昭和26年から小野田セメント（現：長楽採掘所）が石灰岩を採取している。田原市に運ばれ主にセメントの原料として加

工されている。なお、隣接する嵩山地区では元禄以前から石灰岩が採取されていた。

馬越地区では昭和33年から中部砕石が輝緑岩を採取している。主に道路の敷石として使われている。

## (3) 文化・体育活動

### ①玉川校区市民館

玉川校区市民館は昭和58年4月1日に開館した。校区内のコミュニティー活動の中心施設であるとともに、文化活動の中心施設である。総代会はもちろん、子ども会、PTA、体育委員会等、各種団体の活動拠点になっている。

玉川校区市民館では次のような自主講座が開かれている。

手編み・社交ダンス・エアロビクス・ヨガ・ボウカル・生け花・手芸・民舞・大正琴

また、「生き生き子育て推進事業」の一環として、土曜日の午前中に次のような事業が行われている。

囲碁将棋・ビーズ・手品・ダンボールクラフト・ケーキ作り・陶芸



将棋教室

### ②石巻地区市民館

校区市民館とともに玉川校区の文化活動の拠点になっているのが石巻地区市民館である。

昭和52年に開館したが、平成16年12月、以前に消防署として使われていた建物を改装し、拡張された。石巻中学校区内の各種会合に使われるとともに次のような多彩な自主クラブがある。

各種絵画・押し花・生け花・大正琴・書道・各種ダンス・フラワーデザイン・カラオケ・ヨガ・陶芸・盆栽・考古学・写真・料理・籐



社交ダンス練習風景

18年度の市民館主催の講座として次の講座が開催される。

四季の草花と庭づくり・男の料理教室・幼児ふれあい教室・親子ふれあい教室・高齢者セミナー

### ③石巻地区体育館

この施設はフロアが広く、玉川校区や石巻地区の球技大会にも利用される。

さまざまなグループが次のスポーツを楽しんでいる。

バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・空手

トレーニングルームもあり、月、60人くらいが利用している。

### ④玉川小学校体育館・運動場

玉川小学校体育館は毎晩利用されている。運動場にはナイター設備がある。次の活動が行われる。

バレーボール・ソフトバレー・ミニバスケット・インディアカ  
運動場ではサッカー

### ⑤石巻中学校体育館・石祥館・運動場

体育館では次のような活動をしている。

バレーボール・ソフトバレー・インディアカ

石祥館では次の活動をしている。

日本拳法・体力づくり

運動場では次の活動をしている。

野球・長距離クラブ

以上のように3つの体育施設は毎日利用されている。いずれも仲間が増えるのを歓迎している。

### ⑥石巻老人福祉センター

平成2年に開館した。このセンターは高齢者の健康増進、教養の向上、レクリエーションを目的としている。次の活動が行われている。

囲碁・舞踊・盆栽・歌謡曲・大正琴・バンパー・カラオケ・ゲートボール・グラウンドゴルフ・ペタンク

## (4) 校区内の公共施設

### ①中消防署石巻出張所

平成7年1月1日に現在地に移転した。(以前は現在の石巻地区市民館の隣にあった。)常時7人が待機している。

所有車両は水槽付消防ポンプ自動車2台、資機材搬送車1台、高規格救急車1台、査察車1台である。

救急車の出動回数は平成16年には792回あった。火災出動は管内で7回だった。

#### ②北部学校給食共同調理場

市内に4箇所ある共同調理場の一つであり、小学校14校、中学校5校の給食を作っている。数にして約11,000食分である。

昭和47年度より稼働している。

#### ③市役所石巻窓口センター

昭和52年5月に現地に支所が作られ、57年5月31日に窓口センターと改称された。石巻中学校区の人を中心に利用されている。平成15年度の利用状況は市民課の届出事務1,108件、証明事務14,888件である。その他の利用数を合わせると19,451件になる。

#### ④森岡取水場（県営）

豊川の水を八名井で取り、牟呂用水に流す。その水を森岡取水場で取り、豊橋浄水場にする。八名井から森岡までは高低差を利用して自然に流れてくるが、ここでポンプアップして県営豊橋浄水場にする。1日9万tの水が



森岡取水場

確保され、豊橋市・豊川市および新城市に供給されている。この施設は豊橋浄水場管理室

から無人で遠隔操作される。しかしゴミが多いので時々職員が巡視している。

牟呂用水は現在改修工事が行われている。

#### ⑤石巻駐在所

森岡町内にあり、管内は石巻本町高井・神ヶ谷と森岡町・東森岡・石巻町である。

#### ⑥玉川駐在所

石巻本町長楽にあり、管内は石巻本町長楽・和田・馬越と嵩山町である。

#### ⑦石巻郵便局

明治42年4月に開局し、昭和55年12月に現在地に移転した。集配範囲は石巻中学校区全体である。以前は郵政省の管轄だったが平成15年4月より郵政公社に変わった。近く完全民営化になる。

### (5) その他

#### ①石巻神社一の鳥居

森岡町には石巻神社一の鳥居がある。ここから石巻神社上宮までまっすぐな参道があった。創建された年代は確かではないが元禄16年、石巻神社上宮の改築に伴い、時の領主、久世出雲守が建立した記録が残っている。昭和35年まであった鳥居は高さ8間、巾2間余の木造で大きな物であった。



石巻神社一の鳥居

(6) 玉川校区散策マップ

- Ⓐ J A 豊橋第六事業所
- Ⓑ 石巻地区体育館、北部学校給食共同調理場
- Ⓒ 石巻中学校
- Ⓓ 石巻郵便局
- Ⓔ 中部電力豊橋電力センター
- Ⓕ J A 豊橋石巻支店
- Ⓖ 玉川駐在所
- Ⓗ 石巻地区市民館
- Ⓘ 中消防署石巻出張所
- Ⓙ 玉川小学校
- Ⓚ 玉川校区市民館
- Ⓛ 石巻老人福祉センター
- Ⓜ 玉川保育園
- Ⓝ 石巻高井浄化センター
- Ⓞ 森岡取水場
- Ⓟ 石巻駐在所



- ① 馬越長火塚古墳
- ② 権現山古墳
- ③ 宮西古墳
- ④ 素盞鳴神社
- ⑤ 宝蓮寺
- ⑥ 馬越の池
- ⑦ 中部碎石
- ⑧ 春興院
- ⑨ 竜泉寺址
- ⑩ 梶本八幡社
- ⑪ 石巻中ナンキンハゼ
- ⑫ 樹齢90年の柿
- ⑬ 長楽の道標
- ⑭ 長楽寺
- ⑮ 長楽のクロガネモチ
- ⑯ 長楽のヒノキ
- ⑰ 長楽採鑛所
- ⑱ 長楽正八幡社
- ⑲ 高井城址
- ⑳ 高井正八幡社
- ㉑ 長谷寺のスタシイ
- ㉒ 長谷寺
- ㉓ 慈雲寺
- ㉔ 玉川小の大王松
- ㉕ 太田神社
- ㉖ 高井遺跡
- ㉗ お茶屋橋
- ㉘ 源氏ボタル出現地
- ㉙ 広福寺
- ㉚ 籠矢神社
- ㉛ 石巻神社一の鳥居

## 第3章 教育と文化

### 1 学校教育

#### (1) 寺子屋や私塾

江戸時代から明治の初めにかけて主に寺を会場として行われた。師匠も生徒（寺子、筆子）も特定の資格は必要なく、主に、農民、職人、商人の子が通った。

学習内容は、読み書きが中心であった。玉川校区内の寺子屋や私塾は、次のようであった。

- 馬越村 ◇私塾 万延元年～慶応2年  
師匠は僧1名 寺子16名  
◇宝蓮寺 慶応2年～明治6年  
師匠は僧1名 寺子3名  
神ヶ谷村◇広福寺 慶応2年～明治6年  
師匠は僧1名 寺子10名  
玉川村 ◇慈雲寺 慶応3年～明治6年  
師匠は僧1名 寺子8名  
長楽村 ◇長楽寺 天保13年～明治元年  
師匠は僧1名 寺子10名  
和田村 ◇春興院 文久元年～明治6年  
師匠は僧1名 寺子13名  
◇私塾 慶応元年～明治6年  
師匠は医師1名 筆子5名

#### (2) 玉川保育園

やさしい家族の中で育てられてきた子どもたちにとって、保育園に行き、家族との生活と違った環境の中で集団生活をするということは、大変な経験である。その社会経験の第一歩を踏み出す玉川保育園の歴史は以下のようである。

#### ◇私立玉川保育園の開設

昭和28年4月、豊橋市石巻本町字上ミ畑1番1の地に、施設長・加藤筆吉氏によって入所定員50名で開設された。

◇昭和48年9月、社会福祉法人玉川保育園となる。石巻本町字日南坂7・8合併地に移転した。入所定員110名。

その後、入所定員は200名を越す時期もあり、地域の保育の重要な場となっている。

◇昭和56年4月、現在の石巻本町日南坂7番地の3に園舎を改築した。

#### ◇現在の社会福祉法人玉川保育園

- ・施設長 加藤 朗
- ・入所定員 160名
- ・保育目標 「元気な子」「やさしい子」「考える子」



みんなとっしょ楽しいな！

### (3) 豊橋市立玉川小学校

明治時代になって、明治政府は教育を振興するために文部省を設け、明治5年8月学制を頒布し、義務教育制をとった。

その結果、明治6年12月、石巻村に4小学校が創立された。玉川小学校の学区は現在と異なり次のようであった。

#### ◇小学和田学校

和田村龍泉寺に設置 児童数51

現在の和田、高井、長楽地区を学区

#### ◇小学神ヶ谷学校

神ヶ谷村広福寺に設置 児童数36

現在の神ヶ谷、東森岡、森岡地区と石巻小学校区を学区

#### ◇馬越地区は西郷小学校区であった。

### 〔学制の時代〕 (明治5年～明治13年)

玉川小学校は、明治6年12月、第2大学区第9中学区第37番小学和田学校として、石巻村和田字御所7・8合筆地の龍泉寺(廃寺)内に設立し開校された。現在の杉浦工業所の前あたりになる。

開校したといっても、内情は寺子屋時代と変わらない校舎であり、学校経費も不足がちで、すべては学区に2～3名決められた学校世話方の尽力にかかっていた。

また、当時の生徒は月謝も納め、書籍・学用品も個人負担であった。

#### ◇明治9年 校地を和田字東野に移転

◎明治12年9月「日本教育令」が実施され、学制以来の学区制を廃止し、町村に公立小学校を設置する方針がとられた。

#### ◇明治12年 八名郡32番小学玉川学校と改称

### 〔教育令時代〕 (明治13年～明治19年)

◇明治14年 学区の変更により、神ヶ谷(東森岡、森岡地区を含む)が三輪学区から玉川学区に編入

### 〔小学校令時代〕 (明治19年～昭和16年)

◎明治19年「小学校令」が公布され、義務制が確立されていった。明治33年には尋常小学校を4年制に統一、さらに、明治40年には6年制に延長された。

◎明治22年2月「大日本帝国憲法」が公布され、10月には市町村制が実施されて、翌年1月より玉川村役場が開庁して学区も確定された。

◎明治23年10月、「教育ニ関スル勅語」が公布され、国家体制の精神的支柱として国民道徳、国民教育の基本理念が明示された。以後太平洋戦争終結まで半世紀の間続いた。

◇明治29年 校地を現在の石巻本町字野添10番地に移転した。

◎明治40年代より、八名郡南部小学校連合会の運動競技、学芸会などが始まった。また、校内学芸会や農繁休暇も始まった。

◇明治42年 玉川小学校の徽章の制定

◇大正4年 大正天皇の御大礼記念として「大王松」を植樹。大王松は、北アメリカ原産の常緑樹で日本では珍しかった。

◇大正8年 和田の河合恒吉氏が校医となる。昭和12年まで児童と職員の健康管理に貢献

◇大正14年 馬越地区が、西郷学区から玉川学区に編入

◇昭和2年 現在使用している玉川小学校の徽章が制定

◇昭和5年 御大典記念事業として同窓会を創立、第1回総会開催

### 〔国民学校令の時代〕 (昭和16年～昭和20年)

◎昭和16年3月、「国民学校令」が公布され、天皇を中心とした日本国家をつくるために、学校、家庭、社会のすべてが総力をあげて

「皇道ニ基ツク」ことを目標とした教育が始まった。

- ◇昭和16年 愛知県八名郡石巻村玉川国民学校と改称

**教育基本法の時代** (昭和21年～現在)

◎昭和20年8月の終戦に伴って連合軍の占領下におかれた日本は、GHQ指令、米国教育使節団の勧告などを経て、昭和22年3月「教育基本法」「学校教育法」を制定し、6・3・3・4制の学校制度を確立し、現在に至っている。

- ◇昭和22年・八名郡石巻村立玉川小学校と改称

- ・校訓を「至誠実践」と改定
- ・新校歌を制定  
作詞 佐野康一  
作曲 大木信雄

- ◇昭和23年 「学校後援会」と「父母と教師の会」を設立

- ◇昭和24年 第1回PTA総会を開催

- ◇昭和30年3月 石巻村は豊橋市に合併  
豊橋市立玉川小学校と改称

- ◇昭和46年 プール新設

- ◇昭和47年・学制100年記念事業実施  
・玉川教育百年誌・同窓会名簿を  
発刊

- ◇昭和48年 体育館新設

- ◇昭和57年 玉川校区市民館建設

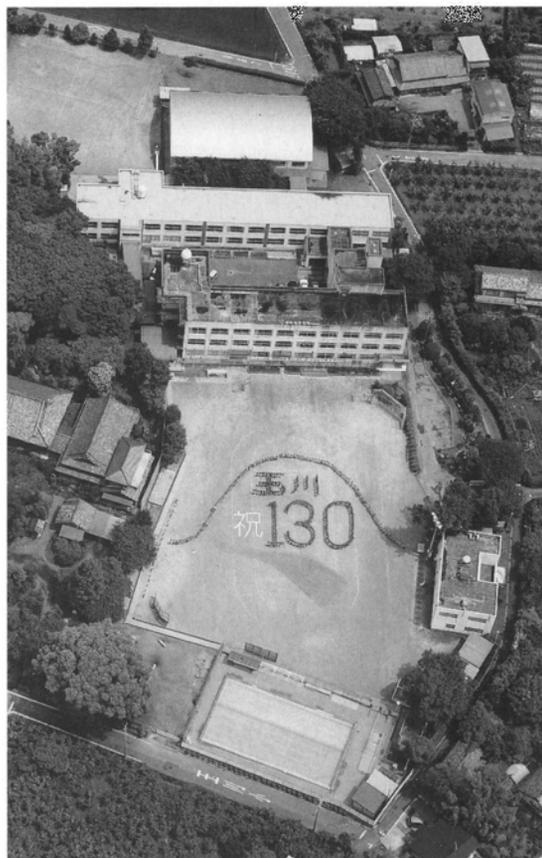
- ◇平成8年 コンピュータ室設置  
玉川ランド完成

- ◇平成14年 学校週5日制実施

- ◇平成15年 韓国晋州児童交流派遣団来校

- ◇平成17年・二学期制実施

- ・こども環境サミット2005  
〈こども交流会〉  
(愛知万博開催を記念して世界のこどもたちと交流)



創立130周年の玉川小学校 (平成16年撮影)



こども環境サミット2005

☆卒業生数 (昭和22年から平成18年3月)

3,684名

玉川校区のみの歴史ではないが、所在地が玉川校区にあり、関連の深い石巻中学校区（玉川、西郷、賀茂、嵩山、石巻校区）の歴史であるのでここに掲載する。

#### (4) 豊橋市立石巻中学校

昭和22年4月、教育基本法と学校教育法が制定され、6・3制の義務教育が始まった。

◇昭和22年4月

当時の石巻村、賀茂村、金沢村の3ヶ村で学校組合の「祥南中学校」として創立し、本校を旧石巻公民学校におき、2年と3年生を収容した。1年生は、各小学校を分教場として収容し、開校した。

校名の「祥南」は、吉祥山の南部に位置する村々の生徒の勉学の場という意味である。

◇昭和22年・中学校建設委員会が設置され、3カ年の石巻村等の継続事業として1千余万円を投じて現在の石巻中学校を建設開始

・校章図案決定（祥南）

◇昭和24年・賀茂村、金沢村が合併して双和村となり、分教場は、「双和中学校」として独立

・祥南中学校は、「八名郡石巻村立石巻中学校」と改称

◇昭和25年 校歌制定

作詞 近田三郎

作曲 大木信雄

◇昭和27年 石巻中学校同窓会発足

◇昭和30年 豊橋市への合併により、校名を「豊橋市立石巻中学校」と改称。

また、双和中学校も八名郡双和村の廃村にともない豊橋市に編入、「豊橋市立双和中学校」と改称

◇昭和31年 生徒会の決議により、廃品回収や薬草採集による資金集めが行われ、汗の結晶の「校旗」を新調

◇昭和33年 双和中学校を石巻中学校に統合  
◇昭和57年 生徒会主催「一人一木育てよう運動」、サツキ植栽

◇昭和58年 生徒会主催「一人一木育てよう運動」、山桜700本を石巻山へ植栽

◇昭和59年 県より、「美しい環境推進モデル校」の指定を受け、学校・生徒会の行事として、「茶摘み会」「茶の施肥・刈り込み」「石巻山・賀茂しょうぶ園のクリーン活動」「草花の植栽」「石巻山へ山桜植栽」に取り組む。

◇昭和61年 市制80周年・タイムカプセル式典

◇平成3年 石巻登山マラソン開始

◇平成4年 学校週5日制開始、第2土曜日は休日となる。

◇平成5年 交通安全全国表彰

◇平成8年 石中創立50周年記念行事記念誌と同窓会名簿発行

◇平成12年 第8回中学校駅伝全国大会に初出場、男子10位（以後、平成17年まで連続出場）

◇平成13年 学校給食優良校表彰（文部科学省表彰）

◇平成15年 駅伝部が豊橋市スポーツ奨励賞受賞

◇平成17年 2学期制実施

〈卒業生数〉 11,919名  
(双和中学校卒業生 466名)

〈校訓〉 自主協同 進取創造 質実剛健

〈教育目標〉 ・本気で勉強する生徒  
 ・本気で他人の気持ちを理解できる生徒  
 ・本気で運動する生徒

#### 【全国大会へ出場して活躍した部活動】

ソフトテニス部、陸上競技部、水泳部  
 柔道部、駅伝部

#### 【石巻中の茶摘みと手もみ茶づくり】

お茶の木は学校の周囲約300mに植えられており、全校生徒の手による茶摘みは石巻公民学校時代の昭和3年から続く伝統行事である。

摘み採ったお茶は新城市内等の工場で加工し、給食で賞味したり、校区の小学校やお世話になる施設などに配ったりしている。毎年35kgくらいの生産量がある。

手もみの茶づくりは、平成12年から取り組み、茶摘み、蒸す、50℃～60℃に温めたほいろの上で回転もみ、固りをほぐす玉解き、もみきり、転繰もみの工程、仕上げ前のこくりと本格的に行なっている。



伝統の手もみ茶づくり

#### (5) 旧石巻公民学校

大正8年、石巻村内の教育の普及と進歩を図る新しい試みとして「石巻村立農業補習学校」を玉川小学校内に付設して農閑期4カ月の夜間約2時間、徴兵検査までの青年に補習教育が行われた。

そして、昭和3年には、新校舎を現在の石巻中学校の所在地に建設し、石巻村立石巻農業補習学校として「石巻公民学校」が開校した。

この公民学校は大きな功績を残している。

石巻は、全国に知られた柿の名産地である。栽培が始められたのは大正元年頃であるが、その柿の栽培が定着し始めた昭和10年代に栽培園で病虫害のため収穫が減る事態が起こり始めた。当時の石巻公民学校は、村の農業技術開発センターでもあり、実験園をつくって防除研究に取り組んだ。そして、柿の果実のへた虫、落葉病、炭そ病の消毒防除に成功した。いわゆる「無袋栽培」である。

現在石巻中学校体育館北側にある富有柿の木は、その実験園の貴重な成果を記念する木の2代目である。

昭和23年、6・3制義務教育実施とともに廃校となった。

#### (6) 旧愛知県立新城高等学校石巻分校

6・3制義務教育実施により、石巻公民学校が廃止されたのを遺憾として、昭和25年各種学校令による「石巻高等農芸学校」が現在の北部学校給食共同調理場のある所に設置された。

昭和26年、教育拡張の意味から定時制高等学校に改め、愛知県立新城高等学校石巻分校と改称した。内容は、定時制の農業コース、家庭科コースであった。

昭和40年4月、本校に統合された。

## 2 社寺の歴史

### (1) 馬越地区の社寺

#### 素盞鳴神社 (十二級社)

- ◇祭神 建速須佐之男命  
〈タケハヤスサノオノミコト〉  
 天照大神の弟、疫病除け、厄除けなど  
 地元民の守護神
- ◇例祭日 3月25日
- ◇年中祭行事
  - ・例祭(春祭)と初参り(新生児と町への  
 転入者) 3月下旬の土・日曜日  
 お祭の催物としては、神事、餅投げを  
 奉納
  - ・春秋のお祭の他の諸祭  
 歳旦祭、慰霊祭、祇園祭、二百二十日祭、  
 新嘗祭、月並祭 など
- ◇創立年代は不明。棟札によると永享9年  
 (1437)9月である。
- ◇境内社 稲荷社、水神社、重長神社、靖  
 国社



素盞鳴神社

#### 明光山・宝蓮寺

- ◇臨済宗 元正宗寺末
- ◇創立年代は不明

- ◇開山慈因和尚の示寂は永和3年(1377)9  
 月である。
- ◇本尊 観世音菩薩(カンゼオンボサツ)  
 慈悲を徳とし、最も広く信仰されている  
 菩薩。阿弥陀仏の脇侍仏または単独で信仰  
 されている。定朝作の伝えがある。
- ◇境内仏堂など 薬師堂、庚申塔
- ◇大正3年3月18日狂人の放火で宝蔵を焼失  
 して古記録什器を失う。同年以後檀徒は漸  
 次神道に改宗し、当寺の檀徒は数戸あるの  
 み。

#### 【みんなが知っておきたい用語】

- 氏神(ウジガミ)  
 本来は氏族の祖先の霊を神として祀った  
 が、現在では住む土地の守護神として祀ら  
 れる。産土神(ウブスナガミ)、鎮守神  
 (チンジュカミ)とも呼ばれる。
- 氏子(ウジコ)  
 氏神、産土神、鎮守神の地元民
- 例祭日  
 祈年祭 例大祭 月次祭 初宮祭  
 歳旦祭 除夜祭 大祓式 農上り祈願祭  
 神遣 二百二十日祭 新嘗祭 など
- 菩提寺(ボダイジ)、檀那寺(ダンナ  
 デラ)  
 自分の家が信者として属している寺
- 檀家(ダンカ)、檀信徒(ダンシント)  
 一定の寺に墓地を持っていて、葬儀・法  
 要などを依頼し、その寺に施しをする家
- 檀信徒の祖先供養  
 葬儀、年忌法要、修正会、春彼岸会、  
 秋彼岸会、お盆行事 など
- 町と寺との合同催事  
 招魂祭、庚申祭、大峯祭 など

## (2) 和田地区の社寺

梶本八幡社

 (十一級社)

藤社大明神⇒和田天神⇒梶本八幡社と名が変わっている。

- ◇祭神・帶中津日子命〈タラシナカツヒコノミコト〉 第14代仲哀天皇
- ・息長帶日売命〈オキナガタラシヒメノミコト〉 神功皇后、仲哀天皇の皇后
- ・誉田和氣命〈ホムタワケノミコト〉 第15代応神天皇、国家鎮護、厄除け開運のご利益

◇例祭日 10月15日

◇年中祭行事

- ・祈年祭、末社例祭（春祭）  
4月上旬の日曜日
- ・例祭（秋祭）（氏子入り）  
10月中旬の日曜日  
前日の土曜日は、頌勲社、宵祭り  
お祭の催物としては、神事、手筒花火、仕掛け花火（綱火）、子ども御輿、餅投げを奉納
- ※ 綱火と綱締め歌の行事は、豊橋市の無形文化財に指定されている。



梶本神社の綱火

- ・春秋のお祭の他の諸祭  
元旦祭、大祓式、田植報告祭、二百二十

日祭、神遣、新嘗祭、秋葉祭、大祓式、除夜祭、月次祭

◇由緒 創立年代は不明

◇境内社 天神社、頌勲社、神明社、稲荷社、天満社、作神社、豊受宮、大山住社、今宮社、秋葉社、御鋤社、巖島社、素盞鳴社、藤葉様、大日様

◇宝物 大日如来、毘沙門天の木像、木彫の猿、弓、鰐口（豊橋市の有形文化財に指定されている）

威徳山 春興院

広福山常林寺⇒石津山春興院⇒威徳山春興院と名が変わっている。

◇曹洞宗 豊川妙巖寺派

◇本尊 十一面観音

〈ジュウイチメンカンノン〉

慈悲を徳とし、最も広く信仰されている菩薩。阿弥陀仏の脇侍仏または単独に信仰されている。

◇創立 永禄9年（1566）、和田城主渡辺凶書頭助清の菩提寺として創建

◇開山 直心禅達和尚

◇境内仏堂など 金比羅堂

◇檀家数 約200戸



春興院

### (3) 長楽地区の社寺

#### 長楽正八幡社

(十二級社)

- ◇祭神 応神天皇〈オウジンテンノウ〉  
第15代天皇、国家鎮護、厄除け開運  
のご利益あり
- ◇例祭日 10月15日
- ◇年中祭行事
  - ・祈年祭(春祭) 3月下旬の土・日曜日  
お祭の催物としては、神事、赤黒の鬼  
餅投げ、御輿を奉納
  - ・例祭日(秋祭) 10月15日前の土・日曜日  
(戦没者慰霊祭も執り行う)
  - ・春秋のお祭の他の諸祭  
歳旦祭、大祓式、農上祈願祭、二百二  
十日祭、神遣、新嘗祭、秋葉神社祭、除  
夜祭、大祓式、月次祭 など
- ◇由緒 創立年代は不明  
永享8年(1436)の棟札があったが、火  
災のため古記録を失った。
- ◇境内社 神明社、須佐之男社、小塩社、秋  
葉社、御鞆社



長楽正八幡社

#### 竜尾山 長楽寺

- ◇臨済宗 元正宗寺末
- ◇檀家数 81戸
- ◇本尊 阿弥陀如来〈アミダニョライ〉  
極楽浄土にいて衆生を救済してくれ  
る仏陀
- ◇境内仏堂など 観音堂(十王堂)、地藏尊  
三界万霊供養塔
- ◇旦那寺における檀信徒の祖先供養  
元旦祈禱会、春彼岸会・説教会、弘法祭、  
宅施餓鬼、山門施餓鬼、初盆供養、精霊送  
り、水子地藏大祭
- ◇区と寺との合同催  
新年祈禱会、英霊法要、観音施餓鬼・無縁  
塔供養・六地藏供養、檜地藏供養



長楽寺

#### 毘沙門天

- ◇祭神 毘沙門天〈ビシャモンテン〉  
護国護法の神として崇拝されている。  
財宝富貴を守ってくれる。
- ◇例祭日 10月19日  
近年は、10月19日前の土・日曜日
- ◇年中祭行事  
長楽下地の人々の守護神であり、例祭日  
には地域の人々がお参りに集まる。また、  
甘酒やおでんの振る舞いもある。

## (4) 高井地区の社寺

## 高井正八幡社

(十級社)

◇祭神・品陀和気命〈ホムタワケノミコト〉

第15代応神天皇

・大雀命〈オオサザキノミコト〉

第16代仁徳天皇

◇例祭日 10月15日

◇年中祭行事

- ・祈年祭(春祭) 3月の第4土・日曜日  
お祭の催物としては、神事、手筒や打  
上げ花火、餅投げ、赤青の鬼(青年)、  
山車(子ども)を奉納
- ・例大祭(秋祭) 10月の第4土・日曜日
- ・春秋のお祭の他の諸祭  
歳旦祭、農上り祈願祭、大祓式、二百  
二十日祭、神遣、新嘗祭、大祓式、除夜  
祭月次祭 など



高井正八幡社の手筒花火

◇由緒

創立年代は  
未詳であるが、  
社伝によると  
養老4年(720)  
とある。

◇境内社

荒神社(東  
頭社、御鞆社、  
火産霊社を合  
祀)

## 太田神社

(十五級社)

◇祭神 太田命〈オオタノミコト〉

◇例祭日 10月19日

◇年中祭行事

- ・祈年祭(春祭) 3月の第2土・日曜日

お祭の催物としては、赤青の鬼(子ども)餅投げを奉納

・例大祭(秋祭) 10月の第2土・日曜日

・春秋のお祭の他の諸祭

高井正八幡社と同じ

◇由緒 創立年代は未詳。正徳2年(1712)の棟札がある。

◇境内社 御鞆社

## 万竜山 慈雲寺

◇臨済宗 元正宗寺末

◇檀家数 70戸

◇本尊 地藏菩薩〈ジゾウボサツ〉

地獄に入って人々の苦しみを代わり  
に受けてくれる菩薩として信仰される。

◇境内仏堂 十王堂、巡礼供養塔、観音像

◇檀信徒の先祖供養

元旦年始、春の彼岸供養、宅施餓鬼、山門  
施餓鬼

## 紫雲山 長谷寺

◇臨済宗 元正宗寺末

◇檀家数 84戸

◇創立 永徳2年(1382) 5月

◇本尊 十一面観音

〈ジュウイチメンカンノン〉

慈悲を徳とし、広く信仰されている菩薩

◇境内仏堂など 薬師堂、行者堂、三界万霊  
供養塔、忠魂碑(高井区の英  
霊29柱を合祀)

◇檀信徒の先祖供養

修正会、春彼岸会、宅施餓鬼、山門施餓鬼  
初盆檀家の松焚き供養、薬師祭

◇区と寺との合同催

高井区の招魂祭・大峯祭・庚申祭

(5) 神ヶ谷・森岡・東森岡地区の社寺

箆矢神社

(十三級社)

◇祭神 武雷神〈タケイカツチノカミ〉  
天象神、雷神、農業の神

◇例祭日 2月28日

◇年中祭行事

- ・大祭(春祭) 例祭日前後の土・日曜日
- ・大祭(秋祭)と初参り

10月中旬の土・日曜日

お祭の催物としては、神事、箆矢太鼓  
山車、餅投げ、甘酒、演芸大会 など

- ・春秋のお祭の他の諸祭  
歳旦祭、初午祭、二百二十日祭、新嘗祭  
大祓式、月次祭

◇由緒 創立年代は不明。しかし、その名は古く「延喜式・神名帳」(猿投神社に残っている)に野屋天神としてその名が見られる。慶長8年(1603)の棟札がある。

◇境内社 稲荷社、天神社、神明社、伊豆彦社



三町子ども会の山車巡行

中尾山 廣福寺

◇臨濟宗妙心寺派

◇本尊 聖観世音菩薩

〈セイカンゼオンボサツ〉

慈悲を徳とし、最も広く信仰されている菩薩。阿弥陀如来の脇侍仏または単独としても信仰されている。

(天台宗の時は、薬師如来)

(真言宗の時は、十一面観音)

◇創立 承安4年(1174)天台宗の寺として佐野家先祖により創建された。享徳元年和田の広福の地に移り真言宗に改宗。享徳4年清原家祖先により神ヶ谷の地に戻る。天正10年臨濟宗に改宗した。天保15年(1844)中尾の地より現在の西屋敷に移る。

◇境内仏堂 観音堂、庚申堂、行者堂、秋葉堂、忠魂碑、白山神社

◇檀家数 120戸

◇檀信徒の先祖供養

修正会、白山祭、春彼岸会、お盆行事、秋彼岸会

◇神ヶ谷三町と寺との合同催

三町の招魂祭と弘法大師祭、総代会・子ども会・老人会による笛掘りと食事会、行者祭と十一面観音祭、秋葉祭と薬師祭

民間信仰

◇庚申〈コウシン〉

神ヶ谷三町には、民間信仰の庚申待がある。庚申というのは、古く奈良時代に、大陸からもたらされた中国の道教の説に基づく庚申(かのえさる)にあたる日の禁忌行事を中心とする信仰である。現在は、本郷東組、本郷西組、森岡旧庚申組、森岡新庚申組で行われている。庚申待は年6回行われ、青面金剛童子の掛け軸を掛け、「南無梵天帝釈青面金剛童子」と唱えながら、立ち、座り、礼拝を繰り返す。

### 3 文化財と人物など

#### (1) 有形文化財・美術工芸品

- ① 梶本八幡社の鰐口（市指定）  
所在地…和田の梶本八幡社

#### (2) 無形民俗文化財

- ① 梶本八幡社の綱火と綱締め歌（市指定）  
所在地…和田の梶本八幡社

#### (3) 史跡

- ① 権現山古墳（県指定）  
所在地…石巻本町字別所・北入田
- ② 馬越長火塚古墳（県指定）  
所在地…石巻本町字紺屋谷
- ③ 宮西古墳（市指定）  
所在地…馬越の素盞鳴神社

#### (4) 天然記念物

- ① 長楽の檜（市指定）  
所在地…石巻本町字東木ノ根49

#### (5) とよはしの巨木・名木100選

- ① 長楽のヒノキ  
・所在地 石巻本町字東木ノ根49  
・推定樹齢 300年以上  
・科名 ヒノキ科ヒノキ属  
・古来より「地藏檜」と親しまれている。
- ② 石巻中学校のナンキンハゼ  
・所在地 石巻本町字出口1  
・推定樹齢 70年以上  
・科名 トウダイグサ科シラキ属  
・豊橋市のナンキンハゼの中でもっとも太い。  
・中国の応山付近から持ち帰ったもの。
- ③ 長楽のクロガネモチ  
・所在地 石巻本町字東木ノ根49  
・推定樹齢 250年以上

- ・科名 モチノキ科モチノキ属  
・豊橋市のクロガネモチノキの中で太い。

#### ④ 石巻本町のカキ

- ・所在地 石巻本町字東野11  
・推定樹齢 90年以上  
・科名 カキノキ科カキノキ属  
・豊橋市の次郎柿の中でも古い木である。

#### ⑤ 長谷寺のスダジイ

- ・所在地 石巻本町字野添20  
・推定樹齢 300年以上  
・科名 ブナ科シイノキ属  
・豊橋市のスダジイの中で太い。

#### ⑥ 玉川小学校のダイオウショウ（大王松）

- ・所在地 石巻本町字野添10  
・推定樹齢 100年以上  
・科名 マツ科マツ属  
・豊橋市のダイオウショウの中でもっとも大きい。

#### (6) 功労者・受賞者

- ① 豊橋市功労者表彰条例による受賞者  
近田 寶一（市議会議員）  
菅沼 義見（市議会議員）  
篠田 進（市議会議員）  
近田 泰彦（市議会議員）
- ② 豊橋市表彰条例による受賞者  
星野 幸市（産業振興）  
加藤 菅根（文化振興）
- ③ 豊橋市教育振興基金表彰受賞者  
花井 達二（教育賞）
- ④ 豊橋市体育振興基金表彰受賞者  
加藤 筆吉（スポーツ賞・柔道）  
福島 鼎（スポーツ賞・ソフトテニス）  
石巻中学校駅伝部（スポーツ奨励賞）
- ⑤ 豊橋市文化振興基金表彰受賞者  
佐野 康一（文化振興賞・俳句）  
近田 三郎（文化振興賞・短歌）

# 参 考 文 献

- 愛知県史（愛知県）  
愛知県の歴史物語（同編集委員会）  
豊橋市史（豊橋市史編集委員会）  
八名郡誌・同 改訂版（八名郡誌編集委員会）  
石巻村誌（石巻村誌編集委員会）  
東三河の歴史（東三高校日本史研究会）  
神ヶ谷郷土史（神ヶ谷郷土史編集委員会）  
中野土地地区画整理事業の完成記念誌  
（中野土地整理組合）  
豊橋寺院誌（豊橋市仏教会寺院誌編集委員会）  
豊橋神社誌  
（愛知県神社庁豊橋支部神社誌編集委員会）  
弓張風土記（石巻中学校国語部）  
目でみる石中35年（石巻中学校同窓会）  
石中50年のあゆみ（石巻中学校同窓会）
- 玉川教育百年誌  
（玉川校区学制百年記念事業実行委員会）  
郷土史玉川（玉川校区文化協会）  
玉川散策（玉川小学校PTA広報部）  
玉川御所と広福寺（松井勉 著、広福寺）  
中尾山のあゆみ（伊藤恵禪）  
南朝正統皇位継承論（藤原丸山 著）  
校区社教のあゆみ  
（豊橋市校区社会教育委員会連絡協議会）  
豊橋自然歩道 50年のあゆみと案内  
（豊橋自然歩道推進協議会）  
豊橋地学めぐり（豊橋地学同好会）  
三河の街道と宿場（大林淳男・日下英之 著）  
日本の歴史（小学館）  
篠田進自伝（篠田進 著）

## 編 集 後 記

玉川という名の由来は不明ですが、当地で初めて歴史に現れるのは南朝方の玉川御所です。  
次に歴史に現れるのは明治8年、玉川村の誕生です。

総代会より校区史の話をいただき、取材する中で、今まで知らなかった校区内の姿が見えてきました。限られたページ数ですので、十分な記事は出来ませんでした。今後の活動に生かしていただければ幸いです。

### 玉川校区史編集実行委員

☆編集はページを分担して担当しました

鈴木福夫 P34～40

加藤照雄 P7、8、33

松井昭年 P9～32

近田郁穂 P41～51

☆次の方々には大変お世話になりました。ご協力ありがとうございました

玉川保育園、玉川小学校、石巻中学校、豊橋農協、中部電力豊橋電力センター、佐野仁巳、星野功、野口泰直、加藤久幸、森清、加藤良夫、服部達、鎌田孝典、中岡修、加藤三喜、福田和男、伊藤覚、佐野貞幸、鎌田秋吉、岡野年宏、山口二三男、佐野彰彦、河合充、田嶋計廣、彦坂政夫、今泉照玉（広福寺）  
鈴木正道（春興院）、久納善弘（長楽寺）、加藤俱彦、佐野稔、加藤末雄、牧野豊次、大岡博人、岡田利通、加藤泰之、河合正夫、杉浦登丸、鈴木登、高木定、高木真一郎、高木理仁、高木康典、高橋久保、内藤勝国、内藤なか、加藤和彦、星野博美、森頼央  
（敬称略・順不同）

### 校区のあゆみ 玉川

平成18年12月25日発行

編 集 玉川校区総代会

玉川校区史編集委員会

発 行 豊橋市総代会

印 刷 株式会社 きょうせい

R100

PRINTED WITH  
SOY INK

古紙配合率100%再生紙を使用しています

Trademark of American Soybean Association



